

平成 22 年度
木材調達のグリーン化普及
啓発キャンペーン実施業務報告書

【一般公開版】

2011 年 3 月

財団法人 地球・人間環境フォーラム

はじめに

地球規模の環境問題である森林減少の進行を食い止めるには、持続可能な森林経営を促進することが重要であるが、持続可能な森林経営を阻害する原因の一つとして、違法伐採が指摘されている。違法伐採は木材生産国の森林減少を引き起こし、二酸化炭素の放出、生物多様性・森林生態系を損なうのみならず、木材の世界における市場価格の引き下げを引き起こす等により、第3国における持続可能な森林経営を脅かすなど、世界の持続可能な森林経営へ深刻な影響を及ぼしている。

我が国は違法伐採対策として、平成18年4月1日からグリーン購入法により政府調達の対象を合法性・持続可能性が証明された木材とする措置を開始したところである。今後は、グリーン購入法に基づく調達方針について、法律の対象である国及び独立行政法人等にとどまらず、広く民間調達にも普及させていくことが必要であり、その普及方策について検討するため、「平成19年度木材・木材製品の調達に係るグリーン購入法の取組・普及調査」において住宅・建築事業者等へアンケート調査等を行った。その結果、合法性・持続可能性が証明された木材の需要拡大のためには、一般国民及び木材製品等の最終消費者に対し、森林減少、違法伐採問題、木材調達のグリーン化に関する情報提供、普及啓発を実施する必要があることが明らかとなったため、平成19年度末より、同キャンペーンを開始したところである。

本業務は、平成20年度及び平成21年度実施の同キャンペーンを引き継ぎ、一般国民及び木材製品等の最終消費者に対し、さらなる普及啓発活動を実施したものである。とくに今年度は平成21年度に作成したDVD教材「人と木～世界の森林を守るために、今私たちにできること～」を活用しての普及活動を中心に実施した。また近年欧州連合（EU）などにおいて、合法性・持続可能性が証明された木材を調達するための法整備などが進んでおり、その最新の情報も収集し、まとめた。

最後に、本業務の実施にあたりご協力をいただいた方々に厚く御礼を申し上げます。

2011年3月

財団法人 地球・人間環境フォーラム
理事長 炭谷 茂

目次

はじめに.....	I
目次.....	II
業務実施体制.....	IV
第1部 木材調達のグリーン化普及啓発キャンペーン実施業務.....	1
第1章 一般国民に対するインターネットを活用した情報提供の実施.....	1
1-1 インターネットを活用した情報提供.....	1
1-2 一般国民に対する展示会・イベント開催を通じた情報提供.....	4
1-3 不特定多数の国民に対する情報提供.....	7
第2章 業界団体等の印刷物への情報掲載.....	11
2-1 情報の提供先.....	11
2-2 情報が掲載された広報誌等.....	16
第3章 消費者団体への働きかけ.....	21
3-1 消費者団体への情報提供.....	21
3-2 消費者団体への個別の働きかけ.....	22
第4章 環境教育への組み込み.....	23
4-1 映像教材についての広報・配布.....	23
4-2 インターネットでの視聴及び映像のダウンロード.....	24
4-3 学習指導案の事例集.....	24
第5章 出前講座の実施.....	41
5-1 配布資料.....	41
5-2 講師リスト.....	41
5-3 出前講座実施リスト.....	41
5-4 出前講座の実施風景.....	43
今後の課題.....	45
第2部 海外における民間調達の需要拡大のための取組の調査.....	46
調査概要.....	47
参考資料.....	49
略語表.....	50

第1章 EUの違法伐採対策とFLEGT行動計画	51
1-1 EUの違法伐採対策の背景と経緯.....	51
1-2 EU FLEGT 行動計画.....	52
1-3 FLEGT VPA とライセンス・スキーム.....	53
1-4 EU 木材法.....	60
第2章 英国とオランダの政府調達の実施	68
2-1 英国.....	69
2-2 オランダ.....	72
第3章 英国における民間の実施	76
3-1 TIMBER TRADE FEDERATION の実施.....	76
3-2 B&Q 社の実施.....	76
3-3 JOHN LEWIS PARTNERS の実施.....	78
第4章 米国の違法伐採対策とレーシー法	80
4-1 米国の違法伐採対策の背景と経緯.....	80
4-2 改訂レーシー法の内容.....	81
4-3 レーシー法の影響と業界の反応.....	85
まとめ	88
第5章 普及啓発活動の現状	90
5-1 政府による実施.....	90
5-2 NGO の実施.....	93
まとめ	99
添付資料1 パネル「木はどこから来ているでしょう」(エコプロダクツ2010用).....	101
添付資料2 Chatham House 17 th Illegal Logging Stakeholder Update Agenda/Participants List.....	104

業務実施体制

本業務は下記実施体制により、実施した。

坂本 有希	財団法人 地球・人間環境フォーラム 企画調査部長／フェアウッド担当	全体調整、出前講座講師
根津 亜矢子	財団法人 地球・人間環境フォーラム 企画調査部研究員／フェアウッド担当	情報提供実施、イベント・展示出展 調整、海外調査実施、報告書作成
飯沼 佐代子	財団法人 地球・人間環境フォーラム 企画調査部研究員／フェアウッド担当	消費者団体調整、出前講座講師
舩井まり	財団法人 地球・人間環境フォーラム プロジェクト研究員	海外調査実施、出前講座講師、報告 書作成
岡崎 時春	国際環境 NGO FoE Japan 森林プロ ジェクト／フェアウッド担当	出前講座講師
中澤 健一	国際環境 NGO FoE Japan 森林プロ ジェクト／フェアウッド担当	出前講座講師
三柴 純一	国際環境 NGO FoE Japan 森林プロ ジェクト／フェアウッド担当	出前講座講師
三上 雄己	フェアウッド・パートナーズ	出前講座講師
木村 輝一郎	フェアウッド・パートナーズ	出前講座講師

第 1 部 木材調達のグリーン化普及啓発キャンペーン実施業務

第 1 章 一般国民に対するインターネットを活用した情報提供の実施

森林減少、違法伐採問題、木材調達のグリーン化の情報について一般国民等への情報提供を実施するためにインターネット媒体やイベントを通じて情報提供を実施した。

1-1 インターネットを活用した情報提供

フェアウッド・パートナーズ及び地球・人間環境フォーラムのウェブサイト、メールマガジン等を通じた情報提供を随時実施した。

1. フェアウッド・パートナーズのウェブサイト

フェアウッド・パートナーズのウェブサイト (http://www.fairwood.jp/news/pr_ev/2010/100825_pr_mokuzai Fukyu.html)において、本業務の内容を紹介するページを設け、出前講座の実施や、昨年度製作した映像教材「人と木～世界の森林を守るため、今私たちにできること」の配布について、また各種イベントなどの紹介を行った。(イメージについては、下記参照)

2. フェアウッドのメーリングリスト

フェアウッドのメーリングリストやメールマガジンにおいても、イベントの情報提供などを適宜行った。(計約 1,660 件)

3. フェアウッド主催の過去のセミナー等参加者

フェアウッドが過去に主催した勉強会、セミナー、ワークショップなどへの参加者に、イベントの情報提供などを適宜行った。

<フェアウッド・パートナーズ ウェブサイトのイメージ>

http://www.fairwood.jp/news/pr_ev/2010/100825_pr_mokuzaifukyu.html

ENGLISH | 日本語

FAIRWOOD PARTNERS

木の流れから、未来をつくる。
フェアウッド・パートナーズ

トップ 団体概要 相談室 世界の森林・木材 資料室 ニュース

森林と私たちの暮らしのつながりについて学ぼうキャンペーン実施中

リリース: 2010.8.25
更新日: 2010.12.8

紙や家具など毎日の暮らしに欠かせない木材製品はどこからやってくるのでしょうか？刻々と減少する世界の森林の現状や違法伐採と木材製品とどうつながり、私たちは何をできるのでしょうか？



責任ある消費者として、木材製品の由来に目を向け、選んで買ってみることが、世界の森林の破壊を食い止めるための第一歩です。

フェアウッドでは、世界の森林問題を木材を通して多くの方々に知ってもらいたいと出前講座の実施やイベントへの出展などの活動を環境省との共同のキャンペーンを実施し、行っています。

活動内容

1. 映像教材「人と木」の配布
2. 出前講座「木材から森を学ぼう」の実施
3. イベントへの出展
4. 雑誌・発行物での記事の掲載
5. パンフレット、チラシなどの配布

活動内容詳細

1. 映像教材「人と木～世界の森林を守るため、今私たちにできること」の配布

フェアウッド・パートナーズの実施団体の一つである地球・人間環境フォーラムは、2009年度の環境省事業として、映像教材「人と木～世界の森林を守るため、今私たちにできること」を作成しました。無料配布を実施しています。

また、実際に授業などで使用した学習指導案の実践事例も収集しております。詳細については、お問い合わせください。
(info@fairwood.jp/Tel. 03-3813-9735)



>> 教材についての詳細は[こちら](#)をご覧ください。

2. 講座「木材から森を学ぼう」の実施(無料)

森や環境について社内や団体、学校で学んでみませんか。

例えば、消費者として、世界と日本の森林保全のために何をできるのか、毎日の暮らしで使う紙や木材製品選びから考えるきっかけ作りをお手伝いします。また、木材を調達している企業の方々からは、木材調達を確認するためのノウハウについてのご相談をお受けします。

講座メニューとしては、映像教材「人と木」を活用したワークショップ形式、または映像と講義を組み合わせた方法などさまざまです。ご希望にあわせてカスタマイズできます。また映像「木の来た道」の上映会やトークショーと組み合わせることも可能です。

2011年3月までならば、無料(交通費含む)で講師を派遣いたします。是非お気軽にお問い合わせください。

3. イベントへの出展・展示等

<終了イベント>
まちの先生見本市
日時: 2011年2月5日(土)
場所: 新宿区立東戸山小学校(新宿区戸山2-34-2)

<p>エコプロダクツ2010 日時:2010年12月9日～11日 10時～18時 場所:東京ビッグサイト東展示場 小間番号:F-20 「森林からはじまるエコライフ」テーマゾーン フェアウッド・パートナーズの展示の詳細はこちら</p> <p>全国大学生協主催「環境セミナー」 日時:2010年10月23日(土) 場所:横浜市立大学</p> <p>4. 雑誌・発行物での記事の掲載 森林問題、木材製品のグリーン購入に関してなどの記事を執筆いたします。媒体をお持ちの方は、是非ご連絡ください。今までの実績については、環境省のページをご参照ください。</p> <p>5. パンフレット、チラシなどの配布 森林減少問題について、わかりやすくまとめたパンフレットやチラシがあります。イベント等で配布したいというご要望があれば、是非ご連絡ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター:「世界の森林は刻々と減少しています」(サイズ:B2 1頁) ダウンロード(0.6MB) ・ちらし:「世界の森林は刻々と減少しています」(サイズ:A4 2頁) ダウンロード(1.16MB) ・広報紙等への掲載原稿 ダウンロード(0.2MB) ・パンフレット:「世界の森林を守るために—違法に採採された木材を使用していませんか?」(サイズ:A3 4頁) ダウンロード(5.25MB) <p>■お問い合わせ フェアウッド・パートナーズ事務局 ・地球・人間環境フォーラム 根津、坂本 TEL 03-3813-9735 ・国際環境NGO FoE Japan 三栄 TEL 03-6907-7217</p> <p>E-mail: info@fairwood.jp</p> <p><この活動は、環境省が行う「木材調達におけるグリーン化普及啓発キャンペーン」の一環として実施されています。></p>	
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

1-2 一般国民に対する展示会・イベント開催を通じた情報提供

環境に関連する展示やイベントにおいて、ブースなどを設置し、一般参加者に対して木材調達のグリーン化及びフェアウッドに関する情報提供を実施した。

(1) 2010 年度 全国環境セミナー

日時：2010 年 10 月 23 日（土）～24 日（日） 9 時半～17 時

会場：横浜市立大学 金沢八景キャンパス（神奈川県横浜市）

主催：全国大学生協同組合連合会

共催：横浜市立大学

後援：環境省、経済産業省、横浜市

来場者数：43 会員（大学）、11 団体（公益法人、NPO、企業等） 計 202 名

内容：ブース出展を行い、全国から本セミナーに参加している大学生に対し、森林減少や違法伐採問題について普及啓発を実施した。とくに学生を対象ということで、使用する紙の削減や種類を選ぶ点などについて喚起した。

<展示の様子>



(2) エコプロダクツ 2010

日時： 2010 年 12 月 9 日 (木) ～11 日(土) 10 時～17 時

場所： 東京ビッグサイト (東京都江東区)

当ブースの来場者数： のべ約 800 名

内容： 間伐材やほかの展示会で使用した木材を再利用して、ブースを作成した。一般消費者向けの展示としては、絵本的なストーリーを読むようなパネルを製作し、「管理された森」と「管理されていない森」の違いを理解してもらうようにした。パネルは添付資料 1 参照。

<展示の様子>



(3) 第 10 回新宿の環境学習応援団 “まちの先生見本市”

日時：2011 年 2 月 5 日 (土) 9 : 45～16 : 00

場所：新宿区立東戸山小学校 (東京都新宿区)

主催：NPO 法人新宿環境活動ネット

共催：新宿区

来場者数：1,700 人（主に東戸山小学校の生徒や近隣の小学校の生徒）

内容：身の回りにある木材や、森林面積などについて、紙芝居を使って、来場者である小学生、親子連れ、主婦、環境活動を行っている人などに実施。また映像教材「人と木～世界の森林を守るため、今私たちにできること」の上映も行った。

<展示の様子>



その他各種セミナーなど

上記以外では、地球・人間環境フォーラムが主催した森林関連のセミナー・勉強会・シンポジウム、さらに別団体が開催するイベントなどで、当キャンペーンのちらしを配布した。

■木づかい祭りだ。全員集合

期間：2010年11月4日～5日

場所：東京大学 弥生講堂

主催：NPO 法人活木活木森ネットワーク

■シンポジウム「みんなで守り育む世界の森 —企業と NGO/NPO のパートナーシップによる森林保全活動—」

日時：2011年1月18日（火）

場所：JICA 地球ひろば講堂

主催：環境省・地球・人間環境フォーラム

参加者：約 80 名

■木の博覧会がやってきた 2011 in あさぎり

日時：2011年2月5日～13日

場所：熊本県あさぎり町

主催：木の博覧会がやってきた 2011 in あさぎり実行委員会

1-3 不特定多数の国民に対する情報提供

映像教材「人と木～世界の森林を守るため、今私たちにできること」の配布や教材を使用した実施事例を収集していることについて、主要メディアへ知らせた。

1. 情報を提供した主要なメディアリスト

- 朝日新聞
- 読売新聞
- 毎日新聞
- 東京新聞
- 日刊木材新聞
- 産経新聞
- エスプレ『O:kun』編集部
- GREENSTYLE 事務局
- (株) 日報アイ・ビー
- (株) 木楽舎
- (株) オルタナ
- 環境新聞社
- (株) 家具新聞社
- 共同通信
- 教育新聞社
- 日本教育新聞社
- 教育家庭新聞社
- 全国教育新聞
- 教育情報新聞
- 兵庫県教育新聞社
- 日教組教育新聞

2. 広告掲載

今回広告を掲載した『ビッグイシュー』は、ホームレスの人々に収入を得る機会を提供する事業で、月 2 回発行される雑誌を、路上でホームレスが販売している。連載記事のほかに、毎号特集が変わる。扱われる内容は、環境、人権問題などさまざまな社会問題を扱っている。読者は女性が約 70%を占める。ビッグイシューが実施したアンケート調査によると、ビッグイシューの読者が興味のあることのトップが「環境・エコロジー」とあり、読者には環境への意識が高い層が多いことがうかがえる。また一冊の雑誌のページ数は約 35 ページと、ページが少ないため、広告を掲載した際にも目にとまる確率が高いだろうということ、また 9 月には、「森へ行く」という森に関連する特集が企画されていることから、この雑誌への広告掲載を決め、実施した。

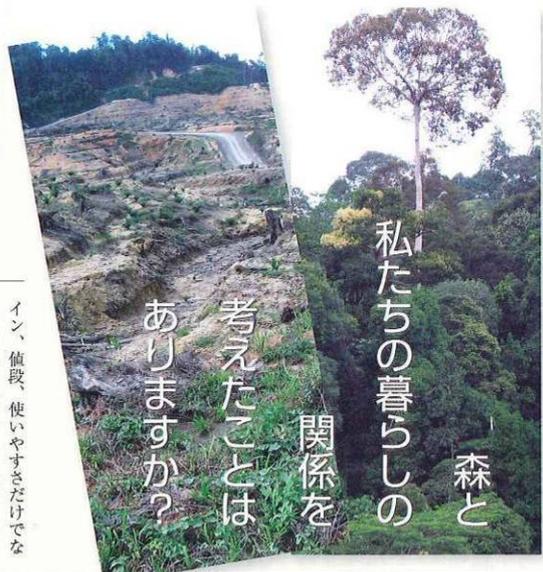
■ビッグイシュー日本版 150 号「特集：森へ行く」（2010 年 9 月 1 日発行）

広告

森林と私たちの関係

「森」という言葉から何を連想するでしょうか。癒しを求める場所。いろいろな動物や植物が生息する聖域。

森林は、都会からは遠い、私たちの暮らしたとは普段は関係のないものと感じるかもしれません。しかし実は、私たちの毎日の生活は多くの森のめぐみに支えられています。たとえば、身近なテーブルやベッド、本棚などの家具、家のフローリングや柱、毎日使う紙製品など、多くのものが木を原料にしています。ではこれらの木製品はどこから来たのでしょうか。家具や紙製品を買う時、デザ



森と
私たちの暮らしの
関係を
考えたことは
ありますか？

イン、値段、使いやすさだけでなく、原料の木がどんな森から来たのかに思いをめぐらせたことはありますか？

世界の森は今

日本は国土の約70%が森に覆われた世界有数の森林大国です。しかし私たちが日々使う木材・木製品の8割は海外から輸入されています。そして世界では、毎年、北海道の面積と同じぐらいの森林が減少しています。5年間で日本が一つ消える位のスピードで森が消えているのです。

森林がなくなることは、森に生きる多様な生き物や、地域の人びとの生活までも脅かします。また

森林減少の原因の一つに「違法伐採（法律に反して伐採されること）」があります。違法伐採が続くと、守るべき貴重な森林もなくなってしまいます。

木が切られて、運ばれ、製品になってお店に並ぶまでは、多くのステップがあります。今はそれがグローバルな規模で行われているために、遠い海外の原産地から私たち消費者のもとに製品が届くまでの間の情報は、とても見えにくくなっています。私たちが、もし木材製品を通じて無意識のうち

に、世界の森林破壊や違法伐採に関わっているとしたら……とても悲しいことです。

食品のトレーサビリティは、食の安全ということから重視されてきています。同じように木材製品についても、トレーサビリティについて考えてみませんか？木材の流れを明らかに、持続可能にするために、私たちフェアウッドパートナーズは活動しています。

フェアウッドとは

フェアウッドとは、伐採地の森林環境や地域社会に配慮した木材・木材製品です。具体的には、①修理・再生した木製品 ②古材や廃材を再利用した木製品 ③最低限、違法伐採でない木材 ④近くの森から生産された木材 ⑤地域住民が自ら適切に森林管理している木材 ⑥信頼できる第三者機関の森林認証を受けた木材などです。

本来、森は成長するもので、適切に管理して「持続可能」な範囲で利用されていけば、森林再生が行われ、木材を使い続けることができます。フェアウッドを選び、使うことで、世界の森林を守ることができるとは、世界で唯一のフェアウッド・コンシューマーになる！

消費者として、世界の森を守るためにできることはなんでしょうか。政府は、2006年から国などが調達する木材や木材製品については、合法性や持続可能性が証明されたもののみを購入しなければならぬという措置を導入しました。しかし、これは木材の市場シェアのわずかに約2%にすぎません。ですから、私たち一人ひとりの消費行動が大切です。

心がけることとしては、たとえば、①余計なものを買わない。買

ったものは長く使う ②中古品、廃材、古紙を選ぶ ③出所の不明なものを買わない ④近くのものを選ぶ（地産地消） ⑤認証マークのある製品を選ぶ ⑥会社の方針を見て選ぶなどがあります。

そして、木製品を買う時や、いつか家を建てる時には、ぜひメーカーに「この木材はどこから来たのですか？ その森林は、持続可能な管理をされていますか？」と聞いてみてください。私たち消費者が環境や森林の問題に関心があり、持続可能な森林の管理をサポートしたい、というメッセージを伝えることが、木材を大量に輸入し販売している企業を動かす、世界の森林破壊にストップをかけることにつながります。

ぜひフェアウッド・コンシューマーになって、持続可能な森林の管理を支え、世界の森林を守る力になってください。

映像教材 『人と木〜世界の森林を守るため、今私たちにできること』※

世界の森林減少と私たちの暮らしのつながりについて学べる環境教育用の教材を作成しました。

DVD（20分）に解説書が付き、対象は中学生以上、無料で配布しています（送料は申込者負担）。講師を派遣する出前講座（無料）も実施しています。森や環境に関心のある市民グループなど小規模でも構いません。お気軽にお問い合わせください。

詳細 URL：（ウェブ上で視聴もできます）
www.gef.or.jp/activity/forest/world/dvd_hitotoki.html

※この教材は、フェアウッド・パートナーズが環境省と実施している「木材調達のグリーン化普及啓発キャンペーン」の一環として作成したものです。

木の道から、未来をつくる。

FAIRWOOD PARTNERS

フェアウッド・パートナーズ
http://www.fairwood.jp
E-mail: info@fairwood.jp
Tel: 03-3813-9795
(地球・人間環境フォーラム内フェアウッド担当まで)

フェアウッド・パートナーズは、(財)地球・人間環境フォーラムと国際環境 NGO FoE Japan の共同プロジェクトです。

その他の広告掲載誌

■Monthly Progress No. 77 11月号 (2010年10月10日発行)

エステティックサロンの経営者対象の業界紙(発行部数:20000部/全国)で開始された「CSRプロジェクト Earth Beauty」にて広告掲載。

no.77 ESTHETICS WIRED | ADVERTISING PLACEMENT 24

日本にも違法伐採された木材が!

日本の樹木の約1割は森林ですが、世界全体の森林は、日本よりもはるかに多く、木材も豊富です。海外から輸入された木材は、多くは合法的に伐採されたものですが、中には違法伐採された木材も含まれています。違法伐採された木材は、環境破壊や生物多様性の減少、土壌侵食や水質汚染の原因となります。また、違法伐採された木材は、市場に流通し、消費者が購入してしまう可能性があります。違法伐採された木材の流通を断ち切るためには、木材の調達に厳格な基準を設ける必要があります。違法伐採された木材の流通を断ち切るためには、木材の調達に厳格な基準を設ける必要があります。

たった5年で日本の総面積分の森が喪失 深刻化する世界の森林減少

世界の森林は今、日々減少しています。その原因のひとつは海外で行われている違法伐採による森林減少です。違法伐採された木材は、市場に流通し、消費者が購入してしまう可能性があります。違法伐採された木材の流通を断ち切るためには、木材の調達に厳格な基準を設ける必要があります。



FSC
Forest Stewardship Council



PEFC
Programme for the Endorsement of Forest Certification



SGEC
Sustainable Green Economy Council

「人と木〜世界の森林を守るため、今私たちにできること。」

世界の森林減少と私たちの暮らしのつながりについて、詳しく解説する冊子を無料配布しています。冊子には、違法伐採の現状や、違法伐採を防ぐための取り組み、また、違法伐採された木材の流通を断ち切るための取り組みについても詳しく解説されています。冊子の配布は、フェアウッド・パートナーズを通じて行われます。冊子の配布は、フェアウッド・パートナーズを通じて行われます。

お申し込み先
フェアウッド・パートナーズ
http://www.fairwood.jp
E-mail: info@fairwood.jp
TEL: 03-3813-3735

主催: 人間環境フォーラム/フェアウッド担当
フェアウッド・パートナーズは、国際森林認証機構FSCと国際環境NGO FSC JAPANの共同プロジェクトです。



ADRA JAPAN

●特定非営利活動法人ADRA Japan

概要: 国際「のつ」のなかから世界を救済する「のつ」にADRA Japanは、約120か国に展開する国際NGOです。国際協力を行っています。世界中にわたって活動を行っています。世界中にわたって活動を行っています。

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
TEL: 03-5410-0045
http://www.adra.or.jp



UNESCO

(社)日本ユネスコ協会連盟

概要: 国際「のつ」のなかから世界を救済する「のつ」にUNESCOは、約120か国に展開する国際NGOです。国際協力を行っています。世界中にわたって活動を行っています。

〒150-0013 東京都渋谷区道玄坂1-3-1
〒150-0014 東京都渋谷区道玄坂1-12-2
TEL: 03-5426-1121
http://www.unesco.or.jp



GEF

●財団法人 地球・人間環境フォーラム

概要: 国際「のつ」のなかから世界を救済する「のつ」にGEFは、約120か国に展開する国際NGOです。国際協力を行っています。世界中にわたって活動を行っています。

〒119-0033 東京都文京区湯島3-43-16
〒119-0034 東京都文京区湯島3-43-16
TEL: 03-3813-9735
http://www.gef.or.jp



WWF

●WWFジャパン (財)世界自然保護基金ジャパン

概要: 国際「のつ」のなかから世界を救済する「のつ」にWWFは、約120か国に展開する国際NGOです。国際協力を行っています。世界中にわたって活動を行っています。

〒100-0014 東京都千代田区千代田1-14-6F
TEL: 03-3765-1241 (10:00-17:30受付)
http://www.wwf.or.jp
www.wwf.or.jp



JANIC

●特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター (JANIC)

概要: 国際「のつ」のなかから世界を救済する「のつ」にJANICは、約120か国に展開する国際NGOです。国際協力を行っています。世界中にわたって活動を行っています。

〒169-0051 東京都新宿区西新宿2-9-1
TEL: 03-5292-2911
http://www.janic.org/

マンスリー・プロGRESS ~ CSRプロジェクト: Earth Beauty ~

いま、社会では企業のCSR活動に大きな関心が高まっています。サロンのオーナーの皆様においても経営者として、また消費者として大きな関心事のひとつだと思います。そこで、株式会社タエスタックでは「産善利国体向け広報活動支援プログラム」を提供します。これは上記に掲げた目的の目標を2010年4月より1年間に渡って広報支援させて頂くプロジェクトです。これを機会として読者の皆様にもぜひご関心をお寄せいただければと思います。(株式会社タエスタック CSR推進プロジェクト担当)

■Ecocolo 2010 July No. 50

フェアウッド・コンシューマーになろう!
 私たち消費者の心掛けが、サステナブルな社会をつくる第一歩です。



1. 余計なものを買わない (Reduce)
2. 中古品、廃材、古紙を選ぶ (Reuse, Recycle)
3. 出所の不明なものは買わない
4. 近くのものを選ぶ (地産地消)
5. 認証マークのある製品を選ぶ
6. 販売会社の方針を見て選ぶ

フェアウッド・カフェに行こう!



フェアウッド・パートナーズでは、「Life with forest (森と共に暮らし)」をコンセプトにしたお店「フェアウッド・カフェ」を、イベントや店舗で展開しています。森林産品のコーヒーや木の器、山菜社生かしたドレッシングも、フェアウッドで作られたテーブルとチェアでくつろぎながら楽しめるスペースでは、木エワークショップも開催中。出店やその後のイベント情報など詳細はwebサイトに。




フェアウッド・パートナーズ
 〒113-0033 東京都文京区本郷3-43-16 産田ビル3F (地球・人間環境フォーラム内)
 TEL: 03-3813-9735 FAX: 03-3813-9737 E-mail: info@fairwood.jp
<http://www.fairwood.jp>
*フェアウッド・パートナーズは、財団法人地球・人間環境フォーラムと
 国際環境NGO Fair Japanの共同プロジェクトです。

木の流れから、未来をつくる

たとえば、あなたが使っているテーブル。それはどこに生えていた木からできて、どこで作られた物なのでしょうか。ひとつの物を作るために、世界中のたくさんの人がかかわるようになっていく。原産地から消費者のもとに物が動くまでの情報は、とても見えにくくなっています。特に木材については、違法な伐採が地球温暖化を促進し、豊かな森に暮らす生きものや人を脅かすことから、その流通について、これから注目が高まっていくでしょう。



フェアウッドとは、伐採地の森林環境や地域社会に配慮した木材・木材製品のこと。未来を守るために、フェアウッドを選んでみませんか？

環境保全、人間関係、資源調達のキャンペーン……興味はあるけど、おれに参加したいのめんどくさい! しかも、みんなが参加が面倒くさそう! そんな心配はもういりません。多くのNPO/NGOキャンペーンの中から、毎月かたつを厳選、わかりやすく紹介します。しかも、エココロを言うだけでキャンペーンに参加できる自動参加型。エココロは、有意義な活動を続けるNPO/NGO、そしてちょっと面倒くさがり屋のあなたを応援します。

モノが売れているからこそ、大切に売って来たモノの由来。フェアウッド・パートナーズは、木材や木製製品に注目し、その流れをサステナブルなものにしていく活動をする団体です。木を扱う企業へのアドバイスはもちろん、木製製品が私たちの手に渡るまでを幅広いドキュメンタリー映画の上映や、フェアウッド・カフェの展開など、一般消費者に向けた情報も発信中。あなたの暮らしにも、フェアウッドを取り入れてみませんか?

Donate Now!

NPO / NGO キャンペーンおうえんプログラム

Vol.40 フェアウッド・パートナーズ

第 2 章 業界団体等の印刷物への情報掲載

合法性・持続可能性が証明された木材・木材製品の需要拡大を図るため、木材関連団体、家具関連業界、環境関係団体等に、環境省作成のポスター及びチラシ「世界の森林は刻々と減少しています」等、森林減少、違法伐採問題、木材調達のグリーン化についての情報を提供し、問題意識を啓蒙し、取組を促すと共に広報誌等、印刷物への掲載への依頼を実施した。また、出前講座や映像教材「人と木ー世界の森林を守るために、今私たちができること」が提供できる旨を伝えた。

2-1 情報の提供先

1. 木材・家具関連業界団体

- 全国天然木化粧合単板工業協同組合連合会
- (社) 全国木材組合連合会
- (中) 全国木材検査・研究協会
- (社) 日本家具工業連合会
- (社) 日本建設業団体連合会
- 日本合板工業組合連合会
- (社) 日本木造住宅産業協会
- 日本木材輸入協会
- 社団法人日本家具工業連合会
- 全国家具卸組合連合会
- 全日本家具商組合連合会
- 社団法人国際家具産業振興会
- 社団法人インテリア産業協会
- 社団法人日本オフィス家具協会
- 日本セーフ・ファニチュア協同組合連合会
- 社団法人日本産業訓練協会
- 全日本ベッド工業会
- 日本合板工業組合連合会
- 日本繊維板工業会
- 日本チェーンストア協会
- 全国建具組合連合会
- 社団法人日本機械工業連合会
- 社団法人全国木工機械工業会
- 日本機械鋸・刃物工業会
- 全日本木工機械商業組合
- 日本木工機械協同組合
- 中部木工機械工業会
- 大阪木工機械協同組合
- 広島木工製材機械協会
- 日本百貨店協会
- ウレタンフォーム工業会
- 社団法人日本合成樹脂技術協会
- 東京椅子張同業者組合連合会

- 板硝子協会
- 全国家具金物組合連合会
- 日本接着剤工業会
- 社団法人日本D I Y協会
- 社団法人日本塗料工業会
- 社団法人プレハブ建築協会
- 社団法人全国木材組合連合会
- 全国天然木化粧合単板工業協同組合連合会
- 社団法人日本インテリアデザイナー協会
- 日本インテリアファブリックス協会
- 独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）
- 社団法人日本能率協会
- アメリカ広葉樹輸出協会
- 日本プリント・カラー合板工業組合
- 全国機械用刃物研磨工業協同組合
- 社団法人日本木材加工技術協会
- 財団法人伝統的工芸品産業振興協会

2. 都道府県地球温暖化防止活動推進センター

No.	地球温暖化防止活動推進センター名	所属団体名
1	全国地球温暖化防止活動推進センター	財団法人日本環境協会
2	北海道地球温暖化防止活動推進センター	財団法人北海道環境財団
3	ストップ温暖化センターあおもり	特定非営利活動法人青森県環境パートナーシップセンター
4	岩手県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて
5	ストップ温暖化センターみやぎ	財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
6	秋田県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人環境あきた県民フォーラム
7	山形県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人環境ネットやまがた
8	福島県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人超学際的研究機構
9	茨城県地球温暖化防止活動推進センター	社団法人茨城県公害防止協会
10	栃木県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人栃木県環境技術協会
11	群馬県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人地球温暖化防止ぐんま県民会議
12	埼玉県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉
13	千葉県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人千葉県環境財団
14	東京都地球温暖化防止活動推進センター	財団法人東京都環境整備公社
15	神奈川県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人かながわアジェンダ推進センター
16	新潟県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人新潟県環境保全事業団

17	山梨県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人フィールド'21
18	静岡県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人アースライフネットワーク
19	富山県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人とやま環境財団
20	石川県地球温暖化防止活動推進センター	社団法人いしかわ環境パートナーシップ県民会議
21	福井県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人エコプランふくい
22	長野県地球温暖化防止活動推進センター	社団法人長野県環境保全協会
23	岐阜県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人岐阜県公衆衛生検査センター
24	愛知県地球温暖化防止活動推進センター	社団法人環境創造研究センター
25	三重県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人三重総合環境研究センター
26	滋賀県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人淡海環境保全財団
27	京都府地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人京都地球温暖化防止府民会議
28	大阪府地球温暖化防止活動推進センター	財団法人大阪府みどり公社
29	兵庫県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人ひょうご環境創造協会
30	奈良県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人奈良ストップ温暖化の会
31	和歌山県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人わかやま環境ネットワーク
32	島根県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人三瓶フィールドミュージアム財団
33	岡山県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人岡山県環境保全事業団
34	脱温暖化センターひろしま	財団法人広島県環境保健協会
35	山口県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人山口県予防保健協会
36	香川県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人香川県環境保全公社
37	愛媛県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人愛媛県環境保全協会
38	高知県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人環境の杜こうち
39	福岡県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人九州環境管理協会
40	佐賀県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人温暖化防止ネット
41	長崎県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人環境カウンセリング協会長崎
42	熊本県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人くまもと温暖化対策センター
43	大分県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人地域環境ネットワーク
44	宮崎県地球温暖化防止活動推進センター	特定非営利活動法人宮崎文化本舗
45	鹿児島県地球温暖化防止活動推進センター	財団法人鹿児島県環境技術協会
46	気候アクションセンターおきなわ	財団法人沖縄県公衆衛生協会

3. サステナビリティ・コミュニケーション・ネットワーク (NSC) 会員企業

NSC は、事業者、NGO、学識者を会員に、さまざまなサステナビリティ・コミュニケーションに

関する研究・情報発信を行う団体。会員には環境や CSR への問題意識が高い企業や団体が所属する。NSC 会員 135 団体・個人に環境省のパフレットとちらしを送付し、出前講座実施などを働きかけたほか、その後電子メール等でもフォローアップを実施した。

<NSC 会員一覧> (2011 年 3 月時点)

学識者 (20 名) (所属大学名のみ掲載)

愛知大学/桜美林大学/大阪大学大学院/大阪学院大学/京都大学/近畿大学/神戸大学大学院/国際基督教大学/淑徳大学/中央大学/中央大学専門職大学院/帝京大学/東京大学/東京工業大学/東北大学大学院/福岡大学/横浜国立大学/立教大学/麗澤大学/麗澤大学

非営利団体 (11 団体)

NPO 法人環境カウンセラー会ひょうご/環境監査研究会/(財)キープ協会/グリーンリポーティング・フォーラム/グローバル・ソリューション研究所/(社)埼玉県環境検査研究協会/(財)世界自然保護基金ジャパン/(財)地球環境戦略研究機関 持続性センター/(社)日本能率協会/(財)日本品質保証機構/バルディーズ研究会

企業等 (104 団体)

あいおい損害保険(株)/アサヒビール(株)/味の素(株)/アスクル(株)/KPMG あずさサステナビリティ(株)/(株)アストクリエイティブ/出光興産(株)/(株) I N A X/(株)インターリスク総研/(株)エコマネジメント研究所/(株)N T T データ/大阪ガス(株)/(株)大林組東京本社/(株)岡村製作所/オムロン(株) /花王(株)/(株)学習研究社/カシオ計算機(株)/鹿島建設(株)/(株)環境管理センター/キッコーマン(株)/共同印刷(株)/キリンホールディングス(株)/(株)キングジム/(株)クレアン/廣告社(株)/コニカミノルタホールディングス(株)/サントリー(株)/(株)ジェイペック/(株)資生堂/(株)島津製作所/清水建設(株)/シャープ(株)/信越ポリマー(株)/(株)新日本サステナビリティ研究所/スーパーバッグ(株)/生活協同組合連合会ユーコープ事業連合/生活協同組合コープながの/生活協同組合コープネット事業連合/(株)西友/積水化学工業(株)/積水ハウス(株)/(株)セブン&アイ・ホールディングス/ソニーファシリティマネジメント(株)/(株)損害保険ジャパン/大成建設(株)/(株)大和証券グループ本社/(株)大和総研/宝酒造(株)/田辺三菱製薬(株)/中央化学(株)/(株)ツムラ/帝人(株)/(株)DDD パートナーズ/(株)テクノアソシエ/東京急行電鉄(株)/T O T O(株)/東洋インキ製造(株)/東洋製罐(株)/監査法人トーマツ/(株)トクヤマ/トステム(株)/凸版印刷(株)/トヨタ自動車(株)/(株)虎屋/(株)ナナオ/日産自動車(株)/(株)ニッセイ基礎研究所/日本水産(株)/日本生活協同組合連合会/日本精工(株)/日本電気(株)/日本ハム(株)/日本郵船(株)/日本ユニシス(株)/(株)博報堂/パナソニック(株)/(株)日立製作所/(株)日立ハイテクノロジーズ/広島ガス(株)/富士重工業(株)/富士ゼロック(株)/富士通(株)/富士通エフ・アイ・ピー(株)/富士レビオ(株)/プリンス電機(株)/(株)フルッタフルッタ/(株)フルハシ環境総合研究所/本田技研工業(株) /前田建設工業(株)/みずほ情報総研(株)/(株)三越/三菱商事(株)/三菱電機(株)/三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)/ミニストップ(株)/みやぎ生活協同組合/(株)山武/ユニ・チャーム(株)/横河電機(株) /ライオン(株)/(株)リクルート/(株)リコー/(株)菱食

4. 環境を考える経済人の会 21 (B-LIFE21) 会員企業

B-LIFE21 は、環境問題に積極的に取り組む日本の代表的企業の経営者で結成している環境 NGO。

<B-LIFE21 会員一覧> (2011 年 3 月時点)

佐川急便／損害保険ジャパン／富士ゼロックス／オムロン／トヨタ自動車／東京電力／東京ガス
／アサヒビール／JR 東日本／セコム／大林組／イオン／コスモ石油

5. 日本環境ジャーナリストの会会員

日本環境ジャーナリストの会は、環境問題に関心を持つジャーナリストに研究と情報交換の場を提供すること、また国内のみならず地球規模の環境問題についてもより深く学び、専門分野を越えたジャーナリスト同士の交流を深めることを目指す団体。日本環境ジャーナリストの会の会員は、約 80 名で、新聞・テレビ・雑誌の記者のほかに、ニュースキャスター、フリーのアナウンサーやライター、出版社編集者、NGO・NPO 関係者、広告代理店の社員なども在籍している。

<会員所属先一例>（順不同）

朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、日本経済新聞社、日本農業新聞、エネルギージャーナル社、日本インターネット新聞社、埼玉新聞、共同通信社、日刊工業新聞、日本農業新聞、(社)日本環境教育フォーラム、集英社インターナショナル、博報堂、中央法規出版(株)、フリーランスジャーナリスト

環境省発行のちらしを、地球・人間環境フォーラムが主催した「シンポジウム生物多様性と企業の役割～認証パーム油の最新動向」（後援：環境省、農林水産省）の案内を業界各社へ送付した際に同封し、世界の森林減少についての情報提供を実施した。送付数は、260 件。

2-2 情報が掲載された広報誌等

■教育新聞

2010年11月1日

教育新聞 2010年(平成22年)11月1日(月) 2面
<http://www.kyobun.co.jp>

森林減少問題を学べる DVD教材「人と木」を無料頒布

(財)地球・人間環境フォーラム(会長・岡崎洋前神奈川県知事)が、環境省の平成21年度事業「木材調達のグリーン化普及啓発キャンペーン」の一環として、DVD教材「人と木」世界の森林を守るため、今私たちにできること(20分)を制作し、無料で頒布して

「楽しみにして見たい」と期待せず、自分の意見や希望をはっきり言い、共通部分を確定する。そのうえで、なるべく共通部分を拡大するように努力

「楽しみにして見たい」と期待せず、自分の意見や希望をはっきり言い、共通部分を確定する。そのうえで、なるべく共通部分を拡大するように努力

「楽しみにして見たい」と期待せず、自分の意見や希望をはっきり言い、共通部分を確定する。そのうえで、なるべく共通部分を拡大するように努力

(財)地球・人間環境フォーラム



いる。生物多様性喪失の大きな原因となっている森林の減少問題について学べる内容となっている。第1章「森林の役割、森林

対象は、高校生以上が推奨だが、小学校高学年以上であれば理解できる内容。大学などで地球環境問題を取り上げる際や環境問題に関心のある人、企業での勉強会などでも活用できる。DVDの郵送を希望す

DVDには、森林減少問題に関する解説とテープ、副教材が付いている。副教材には「教材活用の仕方」「授業のすすめ方のヒント」「映像補足説明」「参考リンク」などが盛り込まれている。

でアクション 総合大学で

初日の午前10時から午後5時半までが第1部「気候変動研究の過去・現在・未来」。2日目は

場合は、80円切手を同封し「映像教材『人と木』希望」と明記して、郵便番号、住所、所属、名前、電話・ファクス番号、Eメールを記載し同フォーラムに申し込む。また、この教材を活用した「授業・学習会実施事例」を募集している。その中から優良なものを学習指導案集としてウェブ上で公開する。よりの多くの人たちに活用してもらうのが目的。

学習指導案を作成するにあたっての注意事項やフォーラムが、同フォーラムのサイト内 (http://www.gef.or.jp/activity/forest/world/dvd_hitotoki.html)にある。

また、映像教材は、章ごとにダウンロードして使用することもできる。ダウンロードした場合、Eメール(contact@gef.or.jp)で連絡する。

申し込み、問い合わせは同フォーラムTEL 3-0033 東京都文京区本郷3-43-16、成田ビル3F/TEL 03(38613)9735。

■家具新聞

2010年11月5日

家具新聞 2010年(平成22年)11月5日(金) 第1571号 4面
<http://www.kagu-news.com>

「森林と暮らしについて学ぶ」 キャンペーン実施中

フェアウッド・パートナーズ

国際環境NGO「FoE Japan」(財)地球・人間環境フォーラムが共同で実施を行っている「フェアウッド・パートナーズ(Fair Wood Partners)」では、持続可能な木材調達の流れをつくり、ビジネスをクリンで、グリーンなことに変えていくことを目的に活動を展開している。

現在、フェアウッドでは世界の森林問題について、木材を通して多くの方に知ってもらいたいと出前講座の実施やイベントへの出展などの活動を、環境省との共同のキャンペーンとして実施。その内容について、木材と関わる家具関連企業に対して広く周知することにも、参加を呼びかけている。

▼映像教材「人と木」世界の森林を守るため、今私たちにできること」の配布
 フェアウッド・パートナーズの実施団体の一つである地球・人間環境フォーラムは、2009年度の環境啓蒙事業として、映像教材「人と木」収録した副教材も付いており、高校や大学などで地球環境問題を取り上げる際や環境問題に関心のある人や、企業での勉強会などでも活用できるものとなっている。

▼講座「木材から森を学ぼう」の実施(無料)
 例えば、消費者として、世界と日本の森林保全のために何をできるのか、毎日の暮らしで使う紙や木材製品選びから考えるきっかけ作りを手伝う。
 また、木材を調達している企業からは、木材調達を確認するためのノウハウについての相談を受け付けている。

▼講座メニューとして
 は、映像教材「人と木」を活用したワークショップ形式、または映像と講義を組み合わせた方法などさまざまです。希望にあわせてカスタマイズもできます。
 また、映像「木の来た道」の上映会やトークショーと組み合わせることも可能。2011年3月までは、無料(交通費含む)で講師を派遣する。

▼パンフレット、チラシなどの配布
 森林減少問題について、わかりやすくまとめたパンフレットやチラシがあり、イベント等での配布の要望に応じている。

▼問い合わせ
 フェアウッド・パートナーズ事務局
 ・地球・人間環境フォーラム 根津、坂本
 TEL:03-3388-3109735
 ・国際環境NGO FoE Japan 三柴
 TEL:03-6907-7217

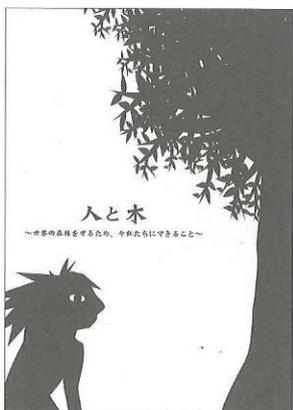
■「グローバルネット」234号（平成 22 年 5 月号）
発行：地球・人間環境フォーラム

映像教材(DVD)

人と木

～世界の森林を守るため、今私たちにできること～

地球・人間環境フォーラムは、環境省事業「木材調達のグリーン化普及啓発キャンペーン」の一環として、世界の森林減少問題を考えてもらうための、映像教材(DVD)を制作しました。DVDには、森林減少問題に関する解説とデータ、さらに授業を実施する際のヒントを収録した副教材も付いています。高校や大学などで地球環境問題を取り上げる際、さらに環境問題に関心のある方や、企業での勉強会などでもご利用いただけます。



- 映像構成(長さ:20分)
- 第1章 森林の役割/森林と人間
- 第2章 世界の森林減少と日本の木材利用
- 第3章 私たちにできること
- 副教材(マニュアル構成)
- 教材の活用の仕方
- 授業のすすめ方のヒント
- 映像補足説明
- 参考リンク 等
- 対象
- 高校生以上
(推奨は高校生以上ですが、小学校高学年以上であれば理解できる内容があります)
- 費用
- 送料のみ負担
- 製作:地球・人間環境フォーラム
- 発行:環境省

申し込み方法

本教材をご希望の方は、郵送にて80円切手を同封の上、<映像教材「人と木」希望>として、氏名、所属、郵便番号、住所、TEL/FAX、Eメールを記載の上、地球・人間環境フォーラムまでお申し込みください。

問い合わせ

地球・人間環境フォーラム(担当:根津、坂本)
〒113-0033
東京都文京区本郷3-43-16 成田ビル3F
TEL:03-3813-9735 FAX:03-3813-9737
E-mail:contact@gef.or.jp

編集後記

▶銀座で活躍するミツバチ、銀バチたちがさまざまな物語を紡ぎ出しています。2005年、銀座3丁目の紙パルプ会館の屋上で始まったプロジェクトは、周辺のビルの屋上菜園、農村との交流、福祉作業所との連携にも発展しています。銀バチたちが貯めてくれた蜂蜜は、米粉と蜂蜜のロールケーキ、カステラ、マドレーヌとメニューは増えるばかりです。小さな昆虫が銀座で巻き起こしている出来事とそれを支える人びとを特集しました。

▶中国の世界銀行に対する出資比率拡大が決まり、議決権シェアがドイツ、英国等を抜いて第3位になるそう。今後ほかの開発金融機関も同様になるのだろう。となく同国が絡むプロジェクトには問題指摘が多い。時によって先進国と途上国を使い分けるようなことはやめて、プロジェクトの環境社会配慮にも第3位の實力を示す責任がある。良い事例があればどんどんまねしたらよいと思う。



皆さまに 支えられる 財団活動

月刊環境情報誌「グローバルネット」の購読だけをご希望の方には、年間1万5,000円で毎月お届けします。詳しくは、財団事務局(電話03-3813-9735)までお問い合わせ下さい。

グローバルネット

2010年5月号 通巻234号
発行 2010年5月15日
(月刊/毎月15日発行)
発行人 岡崎 洋
発行所 (財)地球・人間環境フォーラム
〒113-0033
東京都文京区本郷3-43-16
Tel. 03-3813-9735
Fax. 03-3813-9737
URL: www.gef.or.jp
E-mail: globalnet@gef.or.jp
購読料 年間15,000円(消費税・送料込み)
(当財団会員の購読料は、会費に含まれております。)

■「グローバルネット」238号(平成22年9月号)

発行：地球・人間環境フォーラム

木材調達のグリーン化普及啓発キャンペーン実施中!

紙や家具など毎日の暮らしに欠かせない木材製品はどこからやってくるのでしょうか? 刻々と減少する世界の森林の現状や違法伐採が木材製品とどうつながり、私たちは何ができるのでしょうか?

責任ある消費者として、木材製品の由来に目を向け、選んで買ってみることが、世界の森林の破壊を食い止めるための第一歩です。フェアウッド・パートナーズでは、世界の森林問題を多くの人に知ってもらいたいと出前講座の実施や、教材の無料配布などを行っています。

映像教材「人と木～世界の森林を守るため、今私たちにできること」の無料配布

世界の森林減少問題を20分間で理解できる映像教材です。解説・データ、さらに授業を実施する際のヒントを収録した副教材もついています。高校や大学などで地球環境問題を取り上げる際、さらに環境問題に関心のある方や企業での勉強会でもご活用いただけます。

映像構成	20分
第1章 森林の役割、森林と人間	7分21秒
第2章 世界の森林と日本の木材利用	4分20秒
第3章 私たちにできること	8分40秒

本教材はwebで、視聴・入手できますが、DVDと副教材を送付することも可能です(送料のみ申込者負担)。詳細は以下のURLをご参照ください。
www.gef.or.jp/activity/forest/world/dvd_hitotoki.html



学習指導案(授業実施事例)の募集

実際にこの映像教材を活用した授業を実施した際の授業実施事例を収集し、優良事例集を作成します。すでに自然環境学習などユニークな授業をされている場合であれば、その中でいかにこの教材を活用できるかなど、それぞれが工夫をこらした授業案を発表できる場としてもご利用いただけます。優良事例集は、環境省や地球・人間環境フォーラムを通じて広めていく予定です。募集の詳細は、以下のURLをご参照ください。
www.gef.or.jp/activity/forest/world/dvd_hitotoki.html

講座「森林と私たちの暮らしのつながりについて学ぼう」の実施

森、生物多様性、環境について社内や団体、学校で学んでみませんか。
 例えば、消費者として、世界と日本の森林保全のために何をできるのか、毎日の暮らしで使う紙や木材製品選びから考えるきっかけ作りをお手伝いします。また、木材を調達している企業の方々からは、木材調達を確認するためのノウハウについてのご相談をお受けします。
 講座メニューとしては、映像教材「人と木」を活用したワークショップ形式、または映像と講義を組み合わせる方法などさまざまです。ご希望にあわせてカスタマイズできます。2011年3月までならば、無料(交通費含む)で講師を派遣いたします。ぜひお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ

地球・人間環境フォーラム
 (担当：根津・坂本)
 TEL.03-3813-9735 FAX.03-3813-9737
 Eメール: contact@gef.or.jp URL: <http://www.gef.or.jp>

この活動は、環境省事業「木材調達のグリーン化普及啓発キャンペーン」の一環として、環境省と共同で実施しています。

編集後記

- ▶日常生活の中で具体的に取り組むことが難しい生物多様性の問題について、高校生はどのように関わっているのだろうか。恒例となった千葉商科大学主催の全国高校生環境スピーチコンテストで、その意識の高さに驚かされました。愛知県で10月、生物多様性の国際会議が開かれることから、この難解なテーマが選ばれましたが、北海道・標茶でのエゾシカ、埼玉県川越市の伊佐沼の汚染の問題と、紹介したスピーチの概要をぜひお読みください。(H)
- ▶わが家に太陽光発電を設置してまる4年。故障もなく先月末に累積発電総量が8,000kWhとなった。ただし、9月になっても猛暑日と熱帯夜が続く炎夏の今夏は連日エアコンを使わざるを得ず、残念ながら初めて日中の発電分をほぼ冷房に使って切ってしまった。太陽エネルギーで室内が涼しかったのはありがたいが、これからは毎夏、太陽光発電分が冷房以外にまわせない酷暑が続くのだろうか。(良)



皆さまに
 支えられる
 財団活動

月刊環境情報誌「グローバルネット」の購読だけをご希望の方には、年間1万5,000円で毎月お届けします。詳しくは、財団事務局(電話03-3813-9735)までお問い合わせ下さい。

グローバルネット

2010年9月号 通巻238号
 発行 2010年9月15日
 (月刊/毎月15日発行)
 発行人 岡崎 洋
 発行所 (財)地球・人間環境フォーラム
 〒113-0033
 東京都文京区本郷3-43-16
 Tel. 03-3813-9735
 Fax. 03-3813-9737
 URL: www.gef.or.jp
 Email: globalnet@gef.or.jp
 購読料 年間15,000円(消費税・送料込み)
 (当財団会員の購読料は、会費に含まれております。)

■未来図書室.jp 課外活動プログラム紹介（ダイヤモンド社）

2008 年 10 月末～

<http://mirai-tosyositu.jp/program/2008/10/85/1.html>

未来図書室.jp

ホーム > 課外活動プログラム紹介 > 木材から森を学ぼう(グリーン木材調達キャンペーン&フェアウッド出前講座)

木材から森を学ぼう

(グリーン木材調達キャンペーン&フェアウッド出前講座)

紙や家具など毎日の暮らしに欠かせない木材製品はどこからやってくるのでしょうか？…

財団法人 地球・人間環境フォーラム

紙や家具など毎日の暮らしに欠かせない木材製品はどこからやってくるのでしょうか？一刻々と減少する世界の森林の現状や違法伐採と木材製品とどうつながっているのかを知り、私たちが何をできるのか解決策を考える講座です。木材製品の由来に目を向け、選んで買ってみることが、世界の森林の破壊を食い止めるための第一歩です。

<講座構成メニュー>

学習机、紙、住宅、ガーデンファニーチャーなどを題材に、下記のようなメニューで講座は構成されます。ご希望にあわせてカスタマイズできます。

- (1) 世界の森林と日本の木材消費
- (2) 森林の持つ役割
- (3) 森林減少・劣化と違法伐採
- (4) 木材生産地の状況
- (5) 世界／日本の政府や企業の動き
- (6) 私たちにできること：買い手の責任と可能性
- (7) フェアウッド調達とは？

第 3 章 消費者団体への働きかけ

木材調達のグリーン化については、森林減少問題、違法伐採問題の理解が普及された上で、一般国民の消費活動につながっていくことが必要であることから、全国消費者団体連絡会及び同連絡会加盟の消費者団体の活動方針（行動計画など）に木材調達のグリーン化を位置づけてもらうために、上記団体に対し、森林減少、違法伐採問題、木材調達のグリーン化について情報提供・働きかけを行った。

3-1 消費者団体への情報提供

全国消費者団体連絡会及び同連絡会加盟の消費者団体に対し、環境省発行のちらし「世界の森林は刻々と減少しています」等による情報提供を行うとともに、出前講座の実施、広報誌等への記事掲載を呼びかけた。また、DVD 教材「人と木～世界の森林を守るために、今私たちにできること」を使用した出前講座実施についての働きかけを行った。

情報提供を実施した消費者団体一覧（計 37 団体）

- 全国消費者協会連合会
- (財) 日本消費者協会
- 神奈川県県生活共同組合連合会
- 日本青年団協議会
- 全国大学生生活共同組合連合会
- 新日本婦人の会
- 日本婦人団体連合会
- 全国地域婦人団体連絡協議会
- 日本生活共同組合連合会
- 東京都地域婦人団体連名（東京地婦連）
- NPO 法人グリーンコンシューマー東京ネット
- 主婦連合会
- 神奈川県県民部消費生活課普及推進班
- 東京都消費生活総合センター活動推進課
- 横浜市消費生活総合センター
- 愛知県消費者団体連絡会
- 石川県消費者団体連絡会
- 岩手県消費者団体連絡協議会
- 愛媛県消費者団体連絡協議会
- 岡山県消費者団体連絡協議会
- 北九州市消費者団体連絡会
- (NPO)コンシューマーズ京都(京都消団連)
- 群馬県消費者団体連絡会
- 埼玉県消費者団体連絡会
- 静岡県消費者団体連盟
- 消費者団体千葉県連絡会
- 全大阪消費者団体連絡会
- 富山県消費者団体連絡会

- 東京消費者団体連絡センター
- 鳥取県消費者大会実行委員会
- 長野県消費者団体連絡協議会
- 前橋市消費者団体連絡会
- 山口県消費者団体連絡協議会
- 山梨県消費者団体連絡協議会
- 横浜市消費生活総合センター
- J A 全国女性組織協議会
- (社) 全国消費生活相談員協会
- (NPO) 日本消費者連盟

いくつかの団体は、DVD 教材「人と木～世界の森林を守るため、今私たちにできること」の入手を希望した。しかしながら、出前講座を実施したいという要望はなかった。

3-2 消費者団体への個別の働きかけ

今年度は、環境への取組に熱心な生活協同組合（生協）への働きかけが有効と考え、パルシステム連合会、生活クラブ生協連合会、全国大学生生活協同組合連合会へ、まずは個別に学習会の実施などを呼びかけた。

結果としては、各生協は、多くの支部、そしてそれぞれの支部の組合員から構成されており、基本的には組合員の自主性を重んじているため、とりまとめを行っている連合会からトップダウン的に指示を出せない状況にあることがわかった。学習会などもテーマの可能性として情報を提供することはできるが、それ以上は、連合会としてはできないという答えだった。

第 4 章 環境教育への組み込み

昨年度作成した DVD 教材「人と木～世界の森林を守るため、今私たちにできること」の配布と活用を喚起した。

4-1 映像教材についての広報・配布

地球・人間環境フォーラムやフェアウッド・パートナーズが持っているネットワークを活用し、メールにて、映像教材を提供できる旨、また活用実践事例を募集している旨などについて、お知らせを行った

1. 教材の配布実績

DVD 教材「人と木～世界の森林を守るため、今私たちにできること」の団体種別ごとの配布数（2010 年 4 月～2011 年 3 月）

団体の区別	件数
NPO	42
温暖化センター	6
家具業界	1
環境施設	2
環境情報施設	11
企業	63
行政	6
小学校	2
中学校	7
高校	13
専門学校	1
大学	27
大学院	5
学生	2
学校	6
消費者団体	2
団体	17
メディア	5
個人	17
合計	228

注：1 か所に複数の部数を送っているケースもあるため、実際の配布枚数は 2010 年 4 月～2011 年 3 月の間で約 1,000 部。

2. 環境教育関連団体などへの働きかけ

また、特に環境教育について活動している団体への情報提供として、以下を実施した。

神奈川県高等学校総合学科教育研究会

総合学科は、普通科と専門学科に並ぶものとして、導入された学科で¹、総合高校が全国に存在している。総合学科では、幅広い選択科目の中から生徒が自分で科目を選択し学ぶことが可能であり、生徒の個性を生かした主体的な学習を重視している。学校によっては、「環境」という科目を設置しているところもある。そのような経緯から、普通科の高校よりは、環境問題を取り扱う可能性が高いということから、神奈川県立の総合高校での理事会の部会で働きかけを行った。いくつかの高校には、DVD 教材「人と木～世界の森林を守るため、今私たちにできること」を配布したが、それ以上のフィードバックを得られないまま、終了してしまった。

つなぐ人フォーラム

9月26～27日に山梨県清里のキープ協会で開催されたフォーラム。環境教育などに関心のあるさまざまな分野から、約150名が参加。環境省のちらしやDVD教材を配布した。また、その参加者から個別にDVD教材の入手依頼もあった。

新しい環境学習をつくるネットワーク

高校の先生を主とした環境学習プログラムを作成するグループに対し、100部の教材を提供。全国のメンバーへ送付。

4-2 インターネットでの視聴及び映像のダウンロード

地球・人間環境フォーラムのウェブサイト²より、映像教材「人と木～世界の森林を守るため、今私たちにできること」の視聴、ダウンロードが章ごとにできるようにした。また地球・人間環境フォーラムの You tube サイト³での視聴も可能にした。再生回数は、第1章250回、第2章137回、第3章192回となっている(2011年3月23日時点)。さらに環境省の YouTube サイト⁴からも視聴ができるようになっている。こちらのサイトでの再生回数は、第1章949回、第2章355回、第3章351回となっている(2011年3月23日時点)。

4-3 学習指導案の事例集

DVD教材「人と木～世界の森林を守るため、今私たちにできること」を配布した先に、実際に教材を授業やセミナーなどで使用した、実践例の収集を行った。幼稚園、高校、大学、NPOで使用した事例が収集できた。

これ以外に使用した感想などをアンケートとしても収集したが、教材の使用方法は、DVDを見せることにとどまっている場合も多い。または、副教材にある「授業の進め方のヒント」を活用して、授業を進めるなどであった。

当方が講師として、実施する出前講座などで、DVD教材を使用する場合は、パワーポイントを活用することが多くある。すでに公開している教材や映像に追加して、このパワーポイントも地球・人間環境フォーラムのウェブサイトに公開し、活用してもらおうようにする。

¹ http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/seido/04033101.htm

² http://www.gef.or.jp/activity/forest/world/dvd_hitotoki.html

³ <http://www.youtube.com/user/gefjp>

⁴ <http://www.youtube.com/kankyosho>

1. 事例集

①幼稚園

学校名	竹町幼稚園（東京都台東区）
対象とした学年	年中組、年長組
教科名	登園後の時間
授業時間	90 分
実施した際の生徒数	43 名

【教材を活用した日時・場所など】

2010 年 10 月 15 日 9:10～10:40

台東区立竹町幼稚園

同園の設立 80 周年に際し、国際環境 NGO FoE Japan が国内の人工林の間伐促進のために推進する『森のプレゼント』*による間伐材ベンチの寄贈を受け入れることとなり、寄贈イベントの中で本教材を使い、世界の森林について学ぶ講義を実施した。

※ 森のプレゼントとは

森のプレゼントはみんなの寄付金を集めて、管理がなされずに不健全な状態に陥った国内の人工林で間伐作業を行い、間伐材をみんなで使えるベンチにして、公園や幼稚園、学校などに寄贈するプロジェクトです。ベンチを一緒に組み立てて、大切に使うことで、みんなが日本の森の現状について知り、考えるきっかけとなります。

【講義の形式】

年中組、年長組各 20 名の児童と、その保護者計 80 名を対象とした。

年中組を A チーム、年長組を B チームとし、間伐材ベンチの組み立てと上映、講義を交互に行なった。（下記参照）

10/13	年中組	年長組	先生方へのお願い
9:10	ご挨拶（5分）		園長先生ご挨拶
9:15～ 9:55	ベンチ組み立て【説明、作業】（40分）	<ul style="list-style-type: none"> ・ FoE Japan の紹介（5分） ・ DVD観賞『人と木』（20分） ・ 木のシール作り（10分） ・ 世界の森林のお話（5分） 	各チームの誘導 子どものシール作りのお手伝い
9:55～ 10:35	<ul style="list-style-type: none"> ・ FoE Japan の紹介（5分） ・ DVD観賞『人と木』（20分） ・ 木のシール作り（10分） ・ 世界の森林のお話（5分） 	ベンチ組み立て【説明、作業】（40分）	各チームの誘導、 子どものシール作りのお手伝い
10:35	閉会の挨拶（5分）		園長先生ご挨拶

【視聴の様様】

プロジェクターで壁面に大きく投影。前に運動用マットを敷き、児童が座り、後ろに椅子を並べ

て保護者が着席して視聴した。



上映中、幼稚園の教頭先生がアニメーションのところで即興でナレーションを入れたことで、園児たちがより注視することが出来た。概ね下記の通り。

「あっ種がおちて芽が出てきたよ？大きなきになったね。」

「小さな動物は大きな動物のエサになり、大きな動物も自分より大きな動物のエサになりました。」

「強いライオンさんもいつかは倒れて、鳥たちのエサになって土に返っていきます。」

「昔の人たちは家を建てるために、最初、担いで木を運んでいましたが、みんなで引っ張って、動物に引かせて木を運ぶようになりました。」

「最初は斧でコンコン伐っていましたが、ノコギリになり、電動ノコギリで木を切るようになりました。」

「たくさん伐られた丸太は、トラックに載せられて、船に運ばれていきます。」

先生のアナウンスにのって、「鳥さんがでてきた」、「アリさんがでてきた」など、子ども達が積極的に映像から何かを読み取ろうとする姿勢がみられた。

アニメーション以外のところは園児たちには難しい内容だったが、保護者に対しては考えてもらえる内容だったと思う。

上映後、講師より情報の落とし込みを行なった

<園児達に対して>

- ・ どんな動物さんが出てきましたか？（キツネ、ライオン、鳥、アリなど）※元気よく手を挙げて
 - ここに出てきた、たくさんの動物の仲間達は山や森で仲良く暮らしています。僕達人間の勝手に、森を壊していくと、たくさんの仲間達が困ってしまいます。
- ・ 身の回りに木で出来たものは何があるか？（家、机など）※元気よく手を挙げて
 - お寺や神社など、みんなの、おじいさんのそのまたおじいさんよりも昔から、私たちは木を使って、森に感謝しながら生活してきました。また、山や森は、私たちに木をプレゼントしてくれるだけでなく、たくさん降った雨を一度ためて、ちょっとずつ川に流して、下流に住む私たちに水を届けてくれます。私達も木や森がなくなると、とても困っ

てしまうのです。

<保護者に対して>

- ・ 身の回りにある木材製品、どこの森からやってきた木か、どこで作られたものか、わかるものはありますか？（分からない）
 - 残念ながら、今も違法伐採の恐れのある木材が日本に輸入されてきています。私たち消費者が、モノの原産地を確かめて買う、知ろうとすることで、映像に出てきたような、森林の減少を防ぐことが出来ます。
- ・ どういう木を選んで買えばいいでしょうか？
 - お子さん達が、もうすぐ小学校にあがりますね。机や本棚など、色々なものを購入されると思います。これから、お子さん達が長い間手に触れ、生活の一部として使うものです。産地が明確に分かる木製品、極力近くの森で取れた木製品など、森を元気にする木製品を選んであげてください。そして、それらを大切に使うようにしてください。お店に行ったときには、店員さんに、是非「どこで取れた木材ですか？」と聞くようにしてください。買う側が変われば、売る側も変わります。

②小学校（中学年・高学年）

作成者	茨城県消費生活センター 消費者教育啓発員
対象とした学年	小学校 中学年及び高学年

<小学生向け 森林の役割と森林と人とのつながり>

【考え方】

今から10年以上前に、水戸市の大学附属小学校3年生の「心の総合学習」『千波で遊ぼう』の学習の延長で行った親子学習会「千波湖の宝ものを探そう」で選ばれたのが「きれいな水」でした。そこで、「おいしい水を飲みに行こう」というテーマで、千波湖の上の笠原水源（江戸時代水戸の城下に送られた上水道の水源）に行き、茨城県森林アドバイザーの話を聞いて、水と森林の学習をした後に、子ども達が森や土の大切さに気づき、環境保護（土づくり、水の浄化、ゴミ問題等）に一気に流れていったこと。

5年生の授業では、やはり、森林アドバイザーの話を校内の森（江戸時代の二の丸の中にあっただ古い木が多く残っている）で聞き、「落ち葉や古い朽ちた木がアリや小さな虫のすみかやえさになっていること」や「どんなものも次の命をつくるために役だっていること」を学び、森を守ろうという活動（木を育てる、木を守ろう）につながっていきました。

小学校の中学年生（3・4年）の抽象思考の発達段階を考えると、地球規模の環境問題から入るのではなく、身近な生活や自然環境から入るのが適している。また、高学年生（5・6年）は人との関係をつくることや自分の今まで知らない遠い世界に興味を持つので、自然に地球環境問題に目を向けていくことができると考えます。

【中学年向け 森林のはたらきを知ろう】

（目的）自分と森のつながりを感じ取ったり、理解したりする。

（学習の流れ）

- 1 マイ ツリーを見つけよう
（森や校庭で自分の木を見つけ、名前をつけて1年間観察する。）

2 森や校庭で宝物を見つけよう

(各自、葉っぱや枝、木の根などを探して、グループで見つけた宝物とその理由を発表してグループの代表を決める→学級の代表を→学年の代表を)

*この中で命の連鎖に関係した宝物を見つけていくことができます。また、森の中での営みを理解することができます。

3 ビデオ1章(8分)視聴する。

(感じたことを自由に発表する)

*しいて弱肉強食をテーマにせず、自然の中では死も役にたつ、自然界にあるものすべてが、次の命を育てるのに役に立っているという視点で、身近な自然からより広げて大きな自然界の営みという視点で捉えてほうがよいと思います。

4 自分の回りの木や木製品を探そう

(「ツリーマップをつくろう」や「木から作られたものを探そう」などの活動)

*図鑑で木の種類を調べて、家や学校や近くの公園、森などのマップを作ったり、個人やグループ・学級で木製品の表を作ったりする。)

5 木と私たちの生活のつながりを調べよう

(昔の人たちは木をどのように使っていたのか、ビデオから分かったことや家の人に聞いて分かったことをまとめる)

*大昔から、木や森が私たちの生活に役だっていることに気づくことができるようにする。

6 私たちの生活と木や森のつながりをまとめてみよう

7 自分が木を守るためにできることを考えてみよう

【高学年向け 現在の森林問題の解決策を見つけよう】

1 森林の減少は何故起こるのだろうか？

① 第1章④、第2章①を視聴する

② 自由にブレインストーミング的に発表し、グループにまとめていく。

- ・森林の利用の仕方(農地転用、燃料伐採、焼畑農業)
- ・自然災害(森林火災)
- ・違法伐採

2 森林が減少することによって、何が起こるのだろうか？

① 視聴したビデオ等を参考に自由に発表する(自然災害や保水、土砂流出、薬草や生物多様性や地球温暖化への影響、住んでいる人の生活や伝統文化への影響など)

② 自分が興味を持った課題について、さらに調べ、発表する。

3 今、私たちができることは何だろうか？

- ① 第3章を視聴して、自由に発表し、グループにまとめる。
 - ・国・・・グリーン購入法
 - ・国際機関・・・
 - ・民間の企業やNGO、NPOなど

- ② 自分ができることをまとめて発表しよう
 - ・モノを大切に使う。
 - ・木を増やしたり、植林の募金活動に参加したりする
 - ・森林認証制度で認められたモノを購入する。
 - ・木の生産者や生産地、どう運ばれるかを知る。
 - ・木の生産地や生産農家を調べて購入する。
 - ・違法木材を買わない。
 - ・再利用、リサイクルした製品を購入する。

- ③ まとめをする
 - ・選んで購入することは、森林減少を止めること。
(私たちが木の生産者や生産地、リサイクル製品を選んで、木製品を購入することは、木の生産農家や、木工製品を作る人や売の人を選ぶことで、持続可能な森林を育て守ることである。)

【DVDの感想】

地球環境や我々の生活に森の果たす役割は非常に大きいと思います。問題をクローズアップすることは重要であると思いますが、役割や働きをクローズアップした方が、子どもは、守りたい、どうにかしたいという気持ちを強く感じます。

問題を早急に解決するための教育は、問題の現状や今取られている政策等について理解する知識伝授型の教育だけでなく、体験型や体験型に近い手法で自分がどうしたらよいかという感性や行動にどう結びつけるかが重要であると思います。どう授業の中で、感性や行動に結び付く教育手法を取り入れていくかが課題だと考えます。

子どもの感性や行動力には素晴らしいモノがあります。NPO、NGO、サステナビリティを追求している企業等の活動に協力できる活動や一般的にまだ知られていない森林認証ラベルのついたモノやコミュニティ林の広告活動、森林を日本に輸出している地域の人々の思いや生活を伝える活動等が適していると考えます。

③高校

学校名	東京都立川市 T 高校
対象とした学年	高校 1 年、高校 2 年
教科名	理科総合 B
授業時間	50 分 × 2 回
実施した際の生徒数	約 20 名

机の配置：普段の講義形式のまま（1 個ずつの机）

教材にある高校用の授業進め方活用シートの通りに実施。

ただ、DVD を見せる 1 週間前の授業で、あらかじめ森林の重要性や、森林製品認証マーク等を説明し、宿題として、身近な製品についている、認証マークの製品の持参や、それに関する新聞記事や説明書、本などの情報をまとめる課題を出しました。

DVD を見せる際には途中で説明は行わず、終わってからそれぞれの章に取り組ました。各章から得た情報は勿論、その感想や展望を書かせ、同時に森林問題に関する新聞記事を読ませた上で、感想文を提出させました。白黒の映像でもよく理解していました。

④大学

学校名	横浜国立大学経営学部
対象とした学年	2～4 年
教科名	生態会計論Ⅱ
授業時間	90 分 × 1 回
実施した際の生徒数	80 名

通常の講義の中でパワーポイントの一部として使用	80 人
<p>○机の配置（通常の大講義室のまま）</p> <p>○当日の講義のテーマ「森林資源と会計」</p> <p>持続可能な森林経営を行っていくために必要なマネジメントと会計の仕組みについて講義。講義の内容は以下の通り</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 森林の衰退と森林の荒廃 2 持続可能な森林管理と法正林の概念 3 国有林野事業における立木資産の計理 4 造林事業の原価計算と立木原価の費用計算 5 林業の再生と会計の役割 <p>○DVD の教材の使用方法</p> <p>講義は、3、4、5 のマネジメントや 会計を中心としたものであるため、講義内容 1、2 で、森林の現状と機能、森林認証制度についての理解を深めるために DVD 教材は以下の部分をパワーポイント資料と一緒に使用しました。特にディスカッション等はありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の森林の現状 ・世界の森林と日本の木材利用 ・日本政府の取組 ・合法性・持続可能性が証明された木材・紙製品 	

⑤大学

学校名	九州大学（福岡県福岡市）
対象とした学年	農学部地球森林科学コース等 学部 2 年生

教科名	環境社会経済学
授業時間	90分
実施した際の生徒数	65名

机の配置：普段の講義形式のまま

熱帯林保全と森林認証の問題に関する講義の途中で、熱帯林減少・劣化の現状を説明する参考資料としてパート2から見せた。口で説明するだけでは、森林火災の実態など伝わらないので、学生にも好評だった。

⑥NPO

企業名・団体名など	特定非営利活動法人グリーンシティ福岡
セミナーなどの呼称・主旨	内部研修
実施時間	60分
実施した際の参加人数	3名

グループ分けした場合、1グループの人数

3人

机の配置（例：講義形式のまま、グループごとに丸くなる等）

当団体のスタッフ向け内部研修として、映像の視聴とディスカッションを実施。打合せテーブルに着席し、PCの画面上で再生しながら適宜ディスカッション。映像は全編にわたって再生を行った。

主なやり取りは以下の通り。

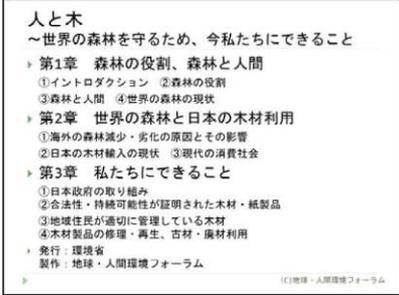
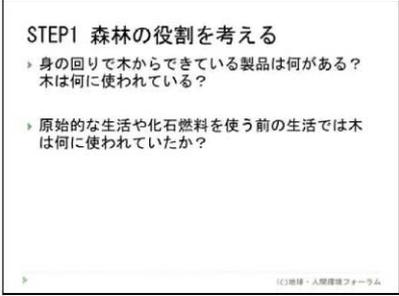
世界の森林の実態に関する理解度について、確認のための質疑応答
環境教育の教材としての本DVDの使い方や対象年齢についての意見交換

今後も、機会があれば紹介 or 活用したい。

2. 地球・人間環境フォーラム作成の授業に使用できるパワーポイント

地球・人間環境フォーラムの職員が、大学での出前講座で実施したプレゼン資料をもとに、DVD教材「人と木～世界の森林を守るため、今私たちにできること」の高校生用と大学生用の活用事例を作成した。パワーポイントは地球・人間環境フォーラムのウェブサイトよりダウンロードできる。

① 高校生用

<p>(C)地球・人間環境フォーラム</p>  <p>DVD教材「人と木～世界の森林を守るため、今私たちにできること」を活用するためのパワーポイントです。 ノート部分に進め方の説明などを記載しますので、参考にしてください。</p> <p>用意するもの： ・DVDプレーヤーとモニター または ・DVDが再生できるコンピューター、プロジェクター、スクリーン、スピーカー （とくにPCから再生する場合、外付けスピーカーがないと教室などでは対応しませんので、ご注意ください）</p> <p>・各グループに配る紙（できれば裏紙などを使いましょう） 一つのグループに4枚ほど。</p> <p>・筆記用具</p> <p style="text-align: right;">1</p>	<p>(C)地球・人間環境フォーラム</p>  <p>DVDの映像の構成を示しています。</p> <p>映像は1章、2章、3章にわかれています。全部で約20分です。</p> <p>進め方としてお勧めするのは、章ごとに映像を見せ、その前後に適宜補足説明をする方法です。</p> <p>では、ステップ1「森林の役割を考える」へ進みましょう。</p> <p style="text-align: right;">2</p>
<p>(C)地球・人間環境フォーラム</p>  <p>準備： ・参加人数や机の配置にもよりますが、1グループ2人～6人ぐらいいにグループ分けをし、グループ内で話し合いをさせましょう。 ・メモをとるための紙を配りましょう。</p> <p>ワークショップ1： 映像を見る前にまず、上の二つの質問を聞いてみましょう。 時間がない場合は、どちらか一つでもいいでしょう。</p> <p>数分間話し合いをしてもらい、いくつかのグループから回答を求めましょう。</p> <p>ビデオ： 話し合いが終わったら第1章（7分21秒）を見ましょう。</p> <p style="text-align: right;">3</p>	<p>(C)地球・人間環境フォーラム</p>  <p>準備： ・参加人数や机の配置にもよりますが、1グループ2人～6人ぐらいいにグループ分けをし、グループ内で話し合いをさせましょう。 ・メモをとるための紙を配りましょう。</p> <p>ワークショップ1： 映像を見る前にまず、上の二つの質問を聞いてみましょう。 時間がない場合は、どちらか一つでもいいでしょう。</p> <p>数分間話し合いをしてもらい、いくつかのグループから回答を求めましょう。</p> <p>ビデオ： 話し合いが終わったら第1章（7分21秒）を見ましょう。</p> <p style="text-align: right;">4</p>

<p>(C)地球・人間環境フォーラム</p> <div data-bbox="293 338 691 636" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>STEP2 世界の森について</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 森が多い国や場所というとき、どこをイメージしますか？ ② 現在、森林の面積は世界で減っていると思いますか？増えていますか？ ③ 日本は森林が多いですか？ </div> <p>準備： 映像第2章では「世界の森林減少」を考えます。 しかしまずその前に少し「世界の森」の状況を思い出し出してもらいましょう。 何か正しい答えを引き出すというよりは、視野を世界に広げてもらうための、ウォーミングアップ的な質問です。</p> <p>ワークショップ1 上記の質問を適宜投げかけてください。 グループディスカッションまたはランダムに発言してもらおう。</p> <p>①森の多い国(例：アラスカ、アマゾン、カナダ、スウェーデン、フィンランド、ブラジル、ドイツ(黒い森))</p> <p>②答え：減っています。 しかし、増えているという答えがあったとしてもそれは否定せずに、「どうして増えていると思うのか？」などを聞いてみましょう。</p> <p>③日本の森林面積は国土の7割です。 ここでは、それぞれについて、とくに答えあわせはせずに、進めましょう。 では、DVDの第2章(4分20秒)を見てみましょう。</p> <p style="text-align: right;">5</p>	<p>(C)地球・人間環境フォーラム</p> <div data-bbox="898 338 1295 636" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>STEP1 DVDの第2章を見る</p> <p>▶ 第2章 世界の森林と日本の木材利用</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 海外の森林減少・劣化の原因とその影響 ② 日本の木材輸入の現状 ③ 現代の消費社会  </div> <p style="text-align: right;">6</p>
<p>(C)地球・人間環境フォーラム</p> <div data-bbox="293 1180 691 1478" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>STEP2 森林が減少する原因</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 世界で森林が減少・劣化している理由を考えてみよう？ ② 違法伐採と聞いて思い浮かべるのはどんな行為？ ③ 森林が減少・劣化することによって、どんな影響があるか？ ④ 日本の木材自給率は何割？この自給率は何を意味しているか？ </div> <p>ワークショップ2:「森林が減少する原因」について考えてみる</p> <p>映像の中でいくつか森林が減少する要因については、説明がありましたが、より深くこの点について考えましょう。</p> <p>質問① 世界で森林が減少・劣化している理由は何？ (これも正しい答えを言うてもらおうということではなく、さまざまなことを考えてもらおう)</p> <p>回答例)</p> <p>次に地図はグラフなどを使っての講義です。 再度森林減少の状況や原因について復習しましょう。</p> <p style="text-align: right;">7</p>	<p>(C)地球・人間環境フォーラム</p> <div data-bbox="898 1180 1295 1478" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>おさまらない森林減少・劣化</p>  <p>Greenpeace Roadmap to Recovery: The world's last intact forest landscapes http://www.greenpeace.org/ 日本緑地再生推進会のロードマップ-世界の残された森の森林 http://www.greenpeace.org/jpcampaign/forests/roadmap_step1gv</p> </div> <p>【講義】 この地図は、世界に広がる原生林と人の手が入った森などの分布を示しています。グリーンピースという世界的な環境団体が発表しました。</p> <p>濃い緑は、「手つかずの森林」のclosed forests(閉鎖林)で、様々な高さの樹木と下生えが地面の大きな割合を覆っています。</p> <p>薄い緑は、「手つかずの森林」のopen forests(疎林)で、簡単にいえば、樹木の密度が薄い森です。ザンベジなどにも広がります。</p> <p>濃いグレーは、原生林ではない森、つまりすでに人の手が入っている森で、そこでも樹木の密度が薄い森。</p> <p>薄いグレーは、人の手が入っている森で、樹木の密度が薄い森です。</p> <p>世界の森林減少・劣化は収まっています。グリーンピース(世界的な環境NGO)が2006年に発表した「森林回復へのロードマップ」では、世界の森林のうち「手つかず」の状態にあるものは全体の5分の1(地球上の濃い緑と薄い緑の部分)、陸地面積の10%にしか過ぎないということが改めて強調されました。つまり森林の大部分は劣化しているか、森林地へ取壊されているか、道路や開墾などの産業活動によって面積5万ヘクタール以下に分割されているということになります。ちなみに、面積が5万ヘクタール以下だからといって、価値のない森林であるということではありません。</p> <p>FAO(FRA2005)によれば、毎年1,400万ヘクタール以上の天然林が減少している。これは日本の国土の1/3の面積。</p> <p>温暖化の観点からみると、土地利用変化によるCO2排出は59年分CO2 4bn t。これは米国1国の排出量に匹敵するほど。 土地利用変化(農地転換、破壊的な商業伐採、インフラ開発、違法伐採)</p> <p style="text-align: right;">8</p>

(C)地球・人間環境フォーラム

原生林、熱帯林の減少

- 世界全体で年間1300万haの森林喪失
- 増加分との差引で年間730万haの純減少
- 原生林の喪失は年間600万ha
- 植林は年間280万ha

右側の棒グラフは、合計した森林の増減を示しています。赤い部分が減少部分で、年間1300万haが世界で減少しています。上の緑の部分は、植林などで森林が増加している部分で、570万haになります。これを差し引くと年間730万haの純減少になります。

【講義】
このグラフは、国別でこの国の森林減少が多いかを表しています。
熱帯にあるブラジルやインドネシアでの森林減少が最も多い傾向にあります。
反対に、欧州のいくつかの国やアメリカなどは増えています。またアジアにおいては、中国は森林が増加しています。これは中国が植林に力を入れているからです。

(C)地球・人間環境フォーラム

森林減少・劣化の要因

- 商業伐採
- インフラ開発
- 森林火災
- アクセスの容易化、増加
- 精緻スタイルの変化
- 地域コミュニティにとっての森林の価値の低下
- 地味経済の変換（現金収入の必要性の増大）
- 人口増加
- 外部資本の流入
- 森林の劣化（森林の健全性の低下、森林の経済性の低下）
- 違法伐採
- 土地の転換＝農地開発など
- 森林がパナンスの低下、不明瞭で手薄した法制度と腐敗した執行

【講義】
森林減少・劣化の要因にはさまざまあります。
【直接原因】
＞商業伐採：企業が多くの場合大規模に原料としての木材を求め、森林を伐採
＞インフラ開発：道路やダムなどの公共施設建設のための伐採
＞農地への転換：畜産など食料をつくるために森林を伐採
＞精緻スタイルの変化(p.25参照)：焼畑のサイクルが短縮したことなどにより、森林が再生しない
＞違法伐採(p.25参照)：法律に違反しての伐採(次のスライドでより詳細を説明)
＞森林火災(p.25参照)
【背景要因】
＞外部資本の流入による地域経済の変換(貨幣経済化)：現金がなくても生活できていたような社会(例：自給自足)からの移行により、現金を必要となり、手短な手段として、森林を伐採して木材を売って、現金を得るなど
＞人口増加：人口が増えると食料供給量を増やさないとけない。そのために農地が必要となり、伐採
＞森林がパナンスの不在・低下：政府・地方行政などがきちんと機能していない例が、国によっては見られる。そのような場合、法制度などが整っていても、それを守る蓋盤がないために、無秩序な伐採などが行われる。

(C)地球・人間環境フォーラム

違法伐採とは？

伐採時 → 加工・流通 → 輸出

- 違法伐採
- 伐採許可の偽造
- 伐採許可の不正取得
- 禁止区域の伐採
- 禁止樹種の伐採
- 無許可採集
- 許可証の偽造
- 許可証の不正取得
- 許可量以上の生産・販売
- 脱税
- 輸出許可証の偽造
- 輸出許可証の不正取得
- 密輸

【講義】
違法伐採とは？
伐採時から、加工・流通、輸出に至るまでの過程において、一つでもその国の法律に違反していれば「違法伐採」
それぞれの段階における違法の例をあげている。

(C)地球・人間環境フォーラム

違法伐採の推定割合とフロー

2004年の見積もりでは、インドネシアの伐採の76-80%、PNGの9割以上は違法。
日本に流通する木材、木材製品の2割程度が違法伐採木材によるもの

【講義】(場合によってはスキップ)
この地図では、違法伐採の各森林産出国の割合を示しています。
例えば、インドネシアの伐採の66%が、ブラジルの80%などと示されています。
そのようにして、さまざまな国から違法伐採材が輸出され、最終的に日本に入ってきている材のうち、1割か2割ぐらいが違法伐採材ではないかと推定されます。
世界銀行によれば、違法伐採による経済的損失は100～150億米ドルとも見積もられている。
＜ここまででは現状について学びました。第3章では、このような問題についてどう対応がされているのか、個人として何が出来るのかを考えます。
まずはDVDの第3章を見ます。＞

(C)地球・人間環境フォーラム

STEP3 DVDの第3章を見る

▶ 第3章 私たちにできること

- ① 日本政府の取り組み
- ② 合法性・持続可能性が証明された
木材・紙製品
- ③ 地域住民が適切に管理している木材
- ④ 木材製品の修理・再生、古材・廃材利用



ここでDVDの第3章(8分40秒)をみましょう。

13

(C)地球・人間環境フォーラム

**私たちにできること
森林認証制度について**





映像では、政府、企業などが、どんな取組をしているのかを紹介しました。

私たち個人として、一消費者としては何ができるでしょうか？

これは、映像でも紹介があった森林認証制度のロゴマークです。(p.33参照)
製品についているロゴもありますが、どこで見かけたことはありませんか？

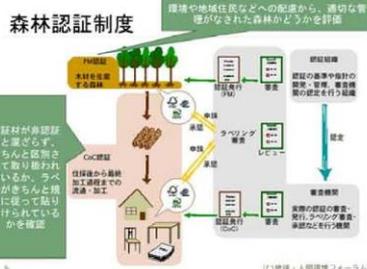
一番左がFSC、真ん中がPEFC、右がSGECです。
FSCとPEFCは国際的な森林認証制度です。
SGECは日本独自の認証制度です。

次のスライドで森林認証制度の仕組みの説明をします。

14

(C)地球・人間環境フォーラム

森林認証制度



森林認証制度には前のスライドにあるように、種類がいくつかありますが、基本的な考え方は同じです。

まずは、森が認証されている必要があります。

<森林認証制度>
環境や地域住民などへの配慮から、適切な管理がなされた森林かどうかを評価します。
これはその森の所有者独自が行うのではなく、第三者機関(通常そのような認証を独自におこなう組織)が行います。これは認証制度の、公平性・信頼性を高めるためです。自主的な宣言では、信頼性がありません。

<CoC認証(サプライチェーンを通じた管理)>
今度は適切に管理された森林から出てきた材が最終的な製品になるまで、きちんと分別されて、ほかの認証されていない材と区別されるように管理されるようなシステムが必要です。その過程も認証される必要があります。

<ロゴの使用>
このように森から製品までが、きちんと追跡できるようになっている場合にのみ、最終製品に各認証制度のロゴマークがつけます。

15

(C)地球・人間環境フォーラム

**STEP3 森林減少を食い止めるために何が
できるのか？**

- ① 森林認証という制度を知っていたか？いくつかあったロゴマークを見たことがあったか？ あったとするとどこで？
- ② 私たちにできることは何だろう？ いつもどんな木材製品を購入しているか？ これからはどんなものをどんなふう購入したいか？

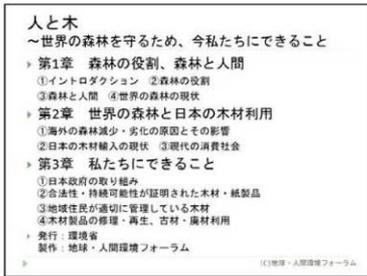
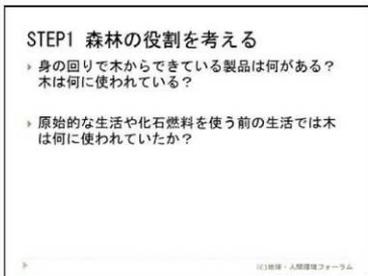
考えてみよう！

16

<p>(C)地球・人間環境フォーラム</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>宿題①</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 森林認証のラベルが付いたものや、合法性、持続可能性が証明された、森林保全に貢献している製品が身の回りにあるか調べてみよう（ワークシート1） <ul style="list-style-type: none"> ▶ 実物をお店で見つけたら、写真を撮る。または、インターネットで検索してみる。 ▶ どんなメーカーがあったか？その会社のウェブサイト調べて、合法性、持続可能性が証明された製品についての説明や環境への取り組みについて、紹介していないか、調べてみる。 ▶ 森林認証のラベルが付いたものや、合法性、持続可能性が証明された紙などの木材製品が、お店などで見つからない場合は、ほかに環境配慮しているという文言や何かラベル・マークがないか調べる。また、お店の人に森林認証ラベルなどについて知っているか聞いてみる。 </div> <p>宿題</p> <p>可能であれば、ワークショップを実施する前に森林認証についての説明を少しした上で、宿題①または、宿題②を行う。</p> <p>【意図】 身の回りに認証のラベルがついている製品が多いか、少ないかを調べる。</p> <p>【分析】 ラベルが多い製品には何か傾向があるか？</p> <p>今後どのような製品にもこのようなラベルがついているといいと思うか？（例えば家具など）</p> <p style="text-align: right;">17</p>	<p>(C)地球・人間環境フォーラム</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>宿題②</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 最近発行された新聞や雑誌から、世界や日本の森林、林業事情などについて扱った記事を調べてみよう。（ワークシート2） </div> <p>この宿題の意図は、ニュースや雑誌、またはテレビなどのマスメディアでどの程度森林についての問題が取り上げられているかをみるもの。 期限は、ここ1週間、1ヵ月、半年など適宜指示する。</p> <p>もし一つも見つけられなかった場合は、それはどうしてか考えてみる。</p> <p>または見つけた内容に何か傾向があれば、その傾向を明らかにし、それについても考えてみる。</p> <p>例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 森林減少そのものについての記事というよりは、温暖化や生物多様性などと絡めた記事が多かった。だとすれば、その背景には何があるのか？ ▶ 林業についてであれば、どういった内容か？輸入材について？木材の価格について？または国産材について？ ▶ 新聞によって傾向も異なるので、新聞による違いを比較してみても。例えば、日経新聞には木材価格についての記事があったが、ほかの新聞にはなかった。 <p>「日刊木材新聞」という業界紙もあるので、図書館などへ行って、閲覧して、どんな記事が掲載されているか調べてみることもすすめる。</p> <p style="text-align: right;">18</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

②大学生用

高校生用とほぼ同じ内容。大学で使用する場合は、教授自身もすでに知識があることを想定し、細かい説明は省いた。また大学においては、「宿題」を要求することが少ないため、宿題の部分も省いている。使用したい場合は、高校生用を参照すること。

<p>(C)地球・人間環境フォーラム</p>  <p>DVD教材「人と木～世界の森林を守るため、今私たちにできること」を活用するための パワーポイントです。 ノート部分に進め方の説明などを記載しますので、参考にしてください。</p> <p>ノートの中のページ数は、DVD教材のページ数です(冊子バージョンの場合は、DVD が入っていた冊子のことです)。</p> <p>用意するもの： ・DVDプレーヤーとモニター または ・DVDが再生できるコンピューター、プロジェクター、スクリーン、スピーカー (とくにPCから再生する場合、外付けスピーカーがないと音量などでは対応しません ので、ご注意ください)</p> <p>・各グループに配る紙(できれば裏紙などを使いましょう) 一つのグループに4枚ほど。</p> <p>・筆記用具</p> <p>問い合わせ先： 本教材についての問い合わせは、地球・人間環境フォーラムまで。 Tel: 03-3813-9735 Fax: 03-3813-9737 E-mail: contact@gef.or.jp</p> <p style="text-align: right;">1</p>	<p>(C)地球・人間環境フォーラム</p>  <p>DVDの映像の構成を示しています。</p> <p>映像は1章、2章、3章にわかれています。全部で約20分です。(p.2)</p> <p>進め方としてお勧めするのは、章ごとに映像を見せ、その前後に適宜補足説明をする 方法です。</p> <p>では、スナップ1「森林の役割を考える」へ進みましょう。</p> <p style="text-align: right;">2</p>
<p>(C)地球・人間環境フォーラム</p>  <p>準備： ・参加人数や机の配置にもよりますが、1グループ2人～6人ぐらいにグループ分けをし、 グループ内で話し合いをさせましょう。 ・メモをとるための紙を配りましょう。</p> <p>ワークショップ1： 映像を見る前にまず、上の二つの質問を聞いてみましょう。 質問がない場合は、どちらか一つでもいいでしょう。</p> <p>数分話し合いをもらい、いくつかのグループから回答を求めましょう。</p> <p>ビデオ： 話し合いが終わったら第1章(7分21秒)を見ましょう。</p> <p style="text-align: right;">3</p>	<p>(C)地球・人間環境フォーラム</p>  <p>映像の再生</p> <p style="text-align: right;">4</p>

<p>(C)地球・人間環境フォーラム</p> <div data-bbox="293 338 691 636" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>STEP2 世界の森について</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 森が多い国や場所というと、どこをイメージしますか？ ② 現在、森林の面積は世界で減っていると思いますか？増えていますか？ ③ 日本は森林が多いですか？ </div> <p>準備： 映像第2章では「世界の森林減少」を考えます。 しかしまずその前に少し「世界の森」の状況思い出し出してもらいましょう。 (但し、大学生が対象で、すでに森林についての理解があり、スキップしてもいい場合は、このスライドはスキップしてください)</p> <p>何が正しい答えを引き出すというよりは、視野を世界に広げてもらうための、ウォーミングアップ的な質問です。</p> <p>ワークショップの 上記の質問を適宜投げかけてください。 グループディスカッションまたはランダムに発言してもらおう。</p> <p>①森の多い国(例: アラスカ、アマゾン、カナダ、スウェーデン、フィンランド、ブラジル、ドイツ(黒い森))</p> <p>②答え: 減っています。 しかし、増えているという答えがあったとしてもそれは否定せずに、「どうして増えていると思うのか？」などを聞いてみましょう。</p> <p>③日本の森林面積は国土の7割です。 ここでは、それぞれについて、とくに答えあわせはせずに、進めましょう。 では、DVDの第2章(4分20秒)を見てみましょう。</p> <p style="text-align: right;">5</p>	<p>(C)地球・人間環境フォーラム</p> <div data-bbox="900 338 1297 636" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>STEP2 DVDの第2章を見る</p> <p>▶ 第2章 世界の森林と日本の木材利用</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 海外の森林減少・劣化の原因とその影響 ② 日本の木材輸入の現状 ③ 現代の消費社会  </div> <p>映像の再生</p> <p style="text-align: right;">6</p>
<p>(C)地球・人間環境フォーラム</p> <div data-bbox="293 1182 691 1480" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>STEP3 森林が減少する原因</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 世界で森林が減少・劣化している理由を考えてみよう？ ② 違法伐採と聞いて思い浮かべるのはどんな行為？ ③ 森林が減少・劣化することによって、どんな影響があるか？ ④ 日本の木材自給率は何割？この自給率は何を意味しているか？ </div> <p>ワークショップ3: 「森林が減少する原因」について考えてみる</p> <p>映像の中でいくつか森林が減少する要因については、説明がありましたが、より深くこの点について考えましょう。</p> <p>質問① 世界で森林が減少・劣化している理由は何？(P.9) (ここも正しい答えを言ってもらおうということではなく、さまざまなことを考えてもらう)</p> <p>次のスライドは、地図やグラフなどを使っての議論です。 再度森林減少の状況や原因について復習しましょう。</p> <p style="text-align: right;">7</p>	<p>(C)地球・人間環境フォーラム</p> <div data-bbox="900 1182 1297 1480" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>おさまらない森林減少・劣化</p>  <p>Greenpeace Roadmap to Recovery: The world's last intact forest landscapes http://www.greenpeace.org/ 日本緑化基金(財団)へのロードマップ: 世界に残された森とその森林 http://www.greenpeace.org/jpcampaign/forests/roadmap_item?gv</p> </div> <p>【講義】 この地図は、世界に残る原生林と人の手が入った森などの分布を表しています。グリーンピースという世界的な環境団体が発表しました。</p> <p>濃い緑は、「手つかずの森林」のclosed forests(閉鎖林)で、様々な高さの樹木と下生えが地面の大きな割合を覆っています。 薄い緑は、「手つかずの森林」のopen forests(疎林)で、階層に言えば、樹木の密度が薄い森です。サバンナなどもここに含まれます。 濃いグレーは、原生林ではない森、つまりすでに人の手が入っている森で、そこでも樹木の密度が薄い。 薄いグレーは、人の手が入っている森で、樹木の密度が薄い森です。</p> <p>世界の森林減少・劣化は収まっていません。グリーンピース(世界的な環境NGO)が2006年に発表した「森林回復へのロードマップ」では、世界の森林のうち「手つかず」の状態にあるものは全体の5分の1(地上上の濃い緑と薄い緑の部分)、陸地面積の10%しか残っていないということが改めて強調されました。つまり森林の5分の4は劣化しているか、植林地に転換されているか、道路や開墾などの産業活動によって面積5万ヘクタール以下に分散されているということになります。ちなみに、面積が5万ヘクタール以下だからと言って、価値のない森林であるということではありません。</p> <p>FAO(FAO2005)によれば、毎年1,490万ヘクタール以上の天然林が減少している。これは日本の国土の1/3の面積。</p> <p>温暖化の観点からみると、土地利用変化によるCO2排出は59ギガCO2-tonに、これは米国1国の排出量に匹敵するほど。 土地利用変化(農地転換、破壊的な商業伐採、インフラ開発、違法伐採)</p> <p style="text-align: right;">8</p>

第 5 章 出前講座の実施

森林減少、違法伐採問題、木材調達のグリーン化について、木材製品等の生産者と消費者に対して普及を図るため、全国を対象として、住宅関連団体及び企業、家具・DIY 関連団体及び企業、消費者団体、環境関連団体等における勉強会、また大学等における環境教育の授業や各種イベント等において出前講座を 48 回実施した。今年は、例年よりも関西、九州、四国など地方への拡がりも見せた。対象に応じて、講座内容や配布資料を変え、よりわかりやすい講座になるように努めた。講座実施時には、下記の資料から抜粋したものを配布した。

5-1 配布資料

環境省パンフレット「世界の森林を守るために」
環境省ちらし「世界の森林は刻々と減少しています。」

5-2 講師リスト

坂本 有希	(財) 地球・人間環境フォーラム企画調査部長／フェアウッド担当
根津 亜矢子	(財) 地球・人間環境フォーラム企画調査部研究員／フェアウッド担当
飯沼 佐代子	(財) 地球・人間環境フォーラム企画調査部研究員／フェアウッド担当
初井 まり	(財) 地球・人間環境フォーラム企画調査部プロジェクト研究員
岡崎 時春	国際環境 NGO FoE Japan 森林プログラム／フェアウッド担当
中澤 健一	国際環境 NGO FoE Japan 森林プログラム／フェアウッド担当
三柴 淳一	国際環境 NGO FoE Japan 森林プログラム／フェアウッド担当
木村 輝一郎	フェアウッド・パートナーズ
三上 雄己	フェアウッド・パートナーズ

5-3 出前講座実施リスト

No.	日時	イベント・実施団体名	住所	参加人数
1	2010/4/5	研究会	茨城県つくば市	50人
2	2010/4/10	NPO	群馬県渋川市	15人
3	2010/4/26	森林総研シンポジウム@早稲田大	東京都新宿区	20人
4	2010/5/24	立教大学	東京都豊島区	80人
5	2010/5/31	立教大学	東京都豊島区	80人
6	2010/6/10	企業	東京都港区	20人

平成 22 年度木材調達のグリーン化普及啓発キャンペーン実施業務報告書

7	2010/6/15	跡見学園女子大学	埼玉県新座市	100人
8	2010/6/19	ウッドマイルズ研究会	東京都江東区	100人
9	2010/6/20	森林組合	山形県鶴岡市	20人
10	2010/6/30	企業	東京都新宿区	20人
11	2010/7/8	企業	東京都港区	8人
12	2010/7/9	オリバー「ソリューションフェア」	大阪府大阪市	50人
13	2010/7/19	グリーンキッズカフェ	東京都世田谷区	5人
14	2010/7/22	明治学院大学	東京都港区	25人
15	2010/9/9	東急ホームズ	東京都渋谷区	100人
16	2010/9/22	シンポジウム「オランウータンの森を守れ！～生物多様性と日本の消費」	東京都渋谷区	100人
17	2010/9/29	品川シルバー大学	東京都品川区	200人
18	2010/9/30	明治学院大学	東京都港区	25人
19	2010/10/14	BIN研究会	東京都渋谷区	40人
20	2010/10/15	企業	東京都渋谷区	10人
21	2010/10/22	セミナー「生物多様性～トラとオランウータンとわたしたち」	東京都千代田区	100人
22	2010/10/23	大学生協環境セミナー	神奈川県横浜市	200人
23	2010/10/26	協議会	東京都渋谷区	24人
24	2010/10/29	三重県木材協同組合連合会	愛知県名古屋	80人
25	2010/10/28	企業	兵庫県姫路市	35人
26	2010/11/1	東京私立中学高等学校協会「環境教育研究会」	東京都千代田区	40人
27	2010/11/8	弁護士会	東京都千代田区	4人
28	2010/11/11	企業	埼玉県越谷市	8人
29	2010/11/24	大学	東京都文京区	4人
30	2010/12/3	+ING attic	東京都渋谷区	40人
31	2010/12/6	+ING attic	東京都渋谷区	30人
32	2010/12/9-11	エコプロダクツ2010	東京都港区	800人
33	2010/12/20	跡見学園女子大学	埼玉県新座市	66人
34	2011/1/10	地球市民教育公開セミナー	徳島県吉野川市	20人
35	2011/1/16	静岡のNPO	静岡県静岡市	20人
36	2011/1/23	企業	東京都品川区	8人
37	2011/1/26	団体	東京都千代田区	25人
38	2010/2/5	新宿まちの先生見本市	東京都新宿区	50人

39	2011/2/8	企業	群馬県渋川市	30人
40	2011/2/9	企業	兵庫県姫路市	30人
41	2011/2/13	堺自然ふれあいの森	大阪府堺市	12人
42	2010/2/20	社団法人 山梨県木材協会	山梨県南アルプス市	44人
43	2011/2/23	東松山きらめき大学	埼玉県東松山市	14人
44	2011/3/4	大学	宮城県仙台市	40人
45	2011/3/8	学校法人	神奈川県横浜市	50人
46	2011/3/9	ホールアース自然学校	静岡県富士宮市	20人
47	2010/3/12	Team My Eco Fukuoka 「いなりの会」	福岡県福岡市	20人
48	2011/3/29	三重県木材協同組合連合会	三重県四日市市	18人

5-4 出前講座の実施風景

●企業

<東急ホームズ>

日時： 2010 年 9 月 9 日

場所： 東京ウィメンズプラザ



●自然教育施設

<堺自然ふれあいの森>

日時： 2011 年 2 月 13 日

場所： 堺自然ふれあいの森（大阪府堺市）



●NPO

<Team My Eco Fukuoka いなりの会>

日時：2011年3月12日

場所：福岡県福岡市



今後の課題

同キャンペーンを継続するにあたり、今年度の活動を踏まえ、検討すべき事業の提案を以下に述べる。

(1) DVD 教材「人と木～世界の森林を守るため、今私たちにできること」の活用について
今年度は教材を広く配布し、活用してもらうことに重点を置き、配布後アンケートも実施した。そのアンケートの結果をみると、先生によって、うまく活用できたという場合と、高校生が対象であっても、生徒の反応もよくなく、うまく活用できなかったという場合があった。つまり、あまり森林問題に関して知識のない場合や、映像を使った授業の実施に不慣れな場合は、提供している副教材だけでは不十分であるように感じた。誰でもが簡単に使える教材の開発は難しいと思うが、今あるものをより使いやすいように工夫する余地はある。まずは、一緒に活用できるパワーポイントなども公開し、活用をうながしたい。

(2) 出前講座の実施について

今年は、関西方面からの出前講座実施の要望が多くあった。関東近郊であれば、交通費がそれほどかからず、出前講座はいつでも実施できるが、遠方の場合、予算がないと実施することが難しいため、無料で講師を派遣できる出前講座の実施は意義ある活動だと思われる。

(3) 消費者へのメッセージ

一般消費者に消費行動を変えてもらうためには、わかりやすい比較的単純なメッセージが有効と思われる。単に「違法伐採材が混入しているかもしれません。出所を確認してください」というのは、抽象的で行動に移しにくい。例えば、欧州では、多くの場合「FSC 認証」を現在あるベストな選択肢として、特に NGO が推奨している。欧州政府のいくつかは、持続可能性も鑑み各認証制度の評価も行っている。今後は日本政府としても「持続可能性」までをカバーした認証制度の評価を行い、推奨するというスタンスに移行するべきと考える。そうすることで、消費者に伝えるメッセージも単純化できるものとする。

(4) NGO/NPO や企業との連携による一般消費者へのキャンペーン

一般消費者へのキャンペーンについては、欧米においては NGO がそれぞれの考え方に基づいて展開している。NGO 等の市民社会への信頼度が高い欧米の例を、社会状況が異なる日本にそのまま取り入れることは難しいが、NGO/NPO または企業と連携した形で一般消費者へのキャンペーンを展開することは有効だと考えられる。

環境省請負事業
平成 22 年度 木材調達のグリーン化普及啓発
キャンペーン実施業務報告書

平成 23 年（2011 年）3 月
財団法人地球・人間環境フォーラム
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-43-16 成田ビル 3F
TEL.03-3813-9735 FAX.03-3813-9737
E-mail: contact@gef.or.jp
URL: <http://www.gef.or.jp>

この印刷物は印刷用の紙にリサイクルできます